

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活デザイン総論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 服飾美術学科における、ファッション、デザイン・アート、情報・地域・ビジネスの観点から多角的な知識や感性を養うとともに、歴史的、文化的に知的教養として幅広く認識し、生活デザインについて深く追求し、考察することを目標とする。 <到達目標> (1)ファッション、デザイン・アート、情報・地域・ビジネス分野についての知的教養が身についている。 (2)生活デザインについて多角的な知識と感性を持ち、考察することができる。				
授業の内容 進 め 方	以下の通り、各教員が原則として1回ずつ（一部は2回）担当する（全15回）。 1. 服飾に関わる空間デザイン作品紹介と考察を行う（担当：松内） 2. 民俗に受け継がれる造形物について事例紹介と考察を行う（担当：松内） 3. Society 5.0, AI, DX, 超スマート社会, ネットワーク社会について（担当：大原） 4. 情報セキュリティとポータルサイト e-Stat 政府統計データの活用（担当：大原） 5. 大学生の学びとキャリア：学びとは、働くとは、生活とは、就職、編入、キャリア支援（担当：廣野） 6. コンセプチュアルな服作り：アントワープ・ファッションを事例に（担当：武永） 7. 企業・組織の活動について具体的な事例をもとに説明を行い、考察する。（担当：岩崎） 8. 主にマーケティングの視点から、ファッション・ビジネスの事例をとりあげて考察する。（担当：岩崎） 9. 現在の服の形について、その成り立ちを歴史的な変化を通して論じる（担当：乾） 10. アパレルデザインの発想と表現法（担当：乾） 11. 現代アート入門：ガイダンス（担当：趙） 12. テキスタイルデザイン・テキスタイルアートの表現について（担当：田中） 13. 生体の特徴を考慮した機能性のデザインについて論じる。（担当：佐藤） 14. 繊維産地児島のものづくり 歴史的背景（担当：道明） 15. 場づくりについて：デザイン・アートプロジェクトの企画および身体との関わり（担当：上村） 定期試験は実施しない 各教員の担当順は都合により変更することがある。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ひととはなぜ服を着るのか』 鷲田清一（ちくま文庫）、『河北秀也のデザイン原論』 河北秀也（新曜社）、『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』 松生勝 編著（朝倉書店）、『平成30年度80テーマで要点整理 ITパスポートのよくわかる教科書（情報処理技術者試験）』 福嶋宏訓 著 原山麻美子 編著（技術評論社）				
準備学習の 具体的内容	参考資料をよく読んでおくこと。				
評価の方法 基 準	授業毎に提出する課題（80%） 授業態度（20%）				
履 修 上 の 注 意	授業毎の課題の提出がないと成績がつけられないため、注意してください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎・大原・廣野・榊原・児島・大川・高杉・前田		
授 業 科 目	アパレル総論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 標 目	<授業の主題> この講義は、繊維産地である倉敷市児島地域のアパレル企業で活躍する方をお招きし、アパレル産業の構造、企画・デザイン、マーケティング、品質管理、生産管理、物流、海外展開などについてお話いただきます。また、児島地域の歴史や地場産業としての繊維産業が発達した背景、仕事術やキャリアデザインについてもお話いただきます。 <到達目標> ① 日頃大学で学んでいる理論や考え方が現場でどのように活かされているかの考察ができる。 ② 児島地域の歴史や地場産業として繊維産業が発達した背景を学んでいる。 ③ 企業で活躍する方のお話を伺うなかで自分自身のキャリアデザインを描ける能力が身についている。				
授業の内容 進 め 方	繊維産業と言っても、そのすそ野は広くさまざまな業界があります。この講義では児島地区で生産が盛んな学生服、作業服、テキスタイル、洗い加工の各業界について学びます。 1. 学生服業界について(1) (担当：榊原) 学生服の歴史、学生服と児島地域 2. 学生服業界について(2) (担当：榊原) 生産管理、品質管理、マーケティング戦略、流通チャネル、ブランディング 3. 学生服業界について(3) (担当：児島) 企画・デザイン、ものづくり、デザイナー職、企画職 4. 学生服業界について(4) (担当：榊原) 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 5. 作業服(1) (担当：大川) 作業服の歴史、作業服と児島地域、 6. 作業服(2) (担当：大川) 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 7. 児島および周辺地域の繊維産業を知る(1) (担当：岩崎・大原・廣野) 生産工程、OEM と ODM、繊維博への参加も想定 8. 児島および周辺地域の繊維産業を知る(2) (担当：岩崎・大原・廣野) 販売とマーケティング、労働力の確保、繊維博への参加も想定 9. テキスタイル業界について(1) (担当：高杉) テキスタイル業界の歴史と世界の動向、テキスタイルと児島地域 10. テキスタイル業界について(2) (担当：高杉) ものづくり、素材、染めの方法、デニム、生産管理、品質管理 11. テキスタイル業界について(3) (担当：高杉) 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 12. テキスタイル業界について(4) (担当：高杉) グローバル・マーケティング戦略、海外見本市、中小企業政策と海外展開 13. 洗い加工業界について(1) (担当：前田) 洗い加工業界とは、洗い加工業界と児島地域 14. 洗い加工業界について(2) (担当：前田) 工場見学（動画鑑賞やオンラインの可能性もあり） 15. まとめ (担当：岩崎・大原・廣野) 授業まとめ、レポート作成 定期試験は実施しない。 担当順は都合により変更することがある。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐山周, 大枝一郎(2011)『1 秒でわかる!アパレル業界ハンドブック』, 東洋経済新報社				
準備学習の 具体的内容	・児島の繊維産業や企業について予備調査をしてください。 ・各企業の先生に質問をすることができるよう、業界や企業について事前学習をしてください。				
評価の方法 基 準	期末レポート (50%) 授業・工場見学毎に提出するミニレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	・意欲的に授業を聞く姿勢を心がけること（授業中の私語や居眠りは厳禁）。 ・工場見学の際には、身動きの取りやすい適切な服装を心がけること。 ・毎授業、リアクション・ペーパーの記入と提出が必要である。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	服飾造形は複数の分野の上に成り立つ応用領域である。特に人体の形態、生理、心理といった要素との関わりが深い。着心地のよい衣服を作成するにはこれら全体を理解しておく必要がある。本講義では衣服造形のプロセスの中で、デザイン、パターンメイキングを中心に講義を行う。 【授業の主題】 多様な衣服の形状や構造及び、被服造形に必要な人体について理解するとともに、人体の運動と衣服パターンとの関係を理解する。また、基本的なパターンメイキングの考え方を学ぶ。 【到達目標】 1. 基本的な衣服の形状や構造を理解し、流行の服のディテールの説明ができる。 2. 衣服製作のプロセスが説明できる。 3. 身頃、スカート、ズボンの基本原型の考え方を理解している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 衣服とは 2. 服飾造形とは・衣服の変遷 3. 衣服の分類・TPO 4. 服制作のプロセス 5. 人体の形状 6. 衣服の生産方法 7. 人体計測法 パターンメイキングの基礎 8. 原型の考え方・種類 9. 原型を応用した身頃パターン作図の基礎 10. 衿の作図 11. 袖の作図 12. スカートの作図の考え方 13. パンツの作図の考え方 14. 作図の展開とそのまとめ方について 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 (参考書：石川欣造他『アパレル設計・生産論』日本衣料管理協会) プリントを配布するので各自でファイリングをすること。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習すること。 普段の生活の中でいろいろな服を見るよう心掛けること。				
評価の方法 基 準	課題提出 (60%) 試験 (40%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、パターンメイキング(CADⅠ・Ⅱ)を受講する人は履修しておくこと。				

学科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子・武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 衣服の設計、製作に関する基礎的な実習を行う。 平面作図によりスカートと身頃の原型を作成し、作図方法の手順を学ぶ。また、基礎縫いやタイトスカートの製作を通して、スカートの原型と人体の関係を理解し、ファスナー付けやウエストベルト付けなど部分縫いの知識やそれらを縫製できる技術を習得する。 【到達目標】 1. 裏付きタイトスカートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 2. ファスナーやウエストベルト付けを理解し、仕立てる技術が身についている。				
授業の内容 進 め 方	1. 機器・用具の説明 基礎縫い（手縫い） (担当：乾・武永) 2. 基礎縫い（ミシン・ロックミシン） (担当：乾・武永) 3. 採寸・タイトスカートパターン作成 (担当：乾・武永) 4. 裁断（シーチング）・印つけ・組み立て (担当：乾・武永) 5. 試着・パターン修正 (担当：乾・武永) 6. 裁断（本布）・印つけ・接着芯裁断 (担当：乾・武永) 7. 伸び止めテープ付け・縫い代の始末・パンツ作成 (担当：乾・武永) 8. ファスナー付け (担当：乾・武永) 9. ダーツ縫い・脇縫い・裏地裁断 (担当：乾・武永) 10. 裏地縫製 (担当：乾・武永) 11. ウエストベルト作り・ウエストベルト付け (担当：乾・武永) 12. ホック付け・裾上げ (担当：乾・武永) 13. レポート作成 (担当：乾・武永) 14. 身頃原型作図 (担当：乾・武永) 15. 着装評価・試験 (担当：乾・武永)				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) レポート (20%) 試験 (10%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	授業時間外の作業が発生する可能性があります。 A クラスは武永、B クラスは乾が担当。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子・武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1年次・後期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 衣服の設計，製作に関する基礎的な実習として，上半身衣であるシャツを製作する。 製作を通じ，上半身の原型からパターン展開できる能力を身につける。さらに衿やカフスなど部分縫いの知識やそれらを縫製できる技術を習得する。 <到達目標> (1)ヨーク付き台衿シャツの設計及び製作を行うことができる。 (2)衿やカフスなどの部分縫いを綺麗に仕立てる技術が身についている。				
授業の内容 進 め 方	1. シーチングによる原型の組み立てと補正 (担当：乾・武永) 2. パターン製作(1)身頃・ポケット (担当：乾・武永) 3. パターン製作(1)衿 (担当：乾・武永) 4. パターン製作(2)袖・カフス・短冊 (担当：乾・武永) 5. 裁断 表地・接着芯 (担当：乾・武永) 6. 印つけ・ポケットの縫製 (担当：乾・武永) 7. 身頃の縫製 (担当：乾・武永) 8. 衿作り・衿付け (担当：乾・武永) 9. 袖作り・袖つけ (担当：乾・武永) 10. 脇縫い・カフスの縫製 (担当：乾・武永) 11. ボタンホール・ボタンつけ (担当：乾・武永) 12. 仕上げ・アイロン (担当：乾・武永) 13. 着装・提出 (担当：乾・武永) 14. レポート作成 (担当：乾・武永) 15. まとめ・試験 (担当：乾・武永)				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料, 道具は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) レポート (20%) 試験 (10%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実習Ⅰ (1年次・前期) を履修していることが望ましい。 Aクラスは乾, Bクラスは武永が担当。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅲ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 西洋の服とは異なる和服の構成や着方についての考え方などを学び、日本文化についての知見を広げる。 単衣長着（浴衣）の製作を通じ、和服制作の方法を学ぶとともに日本独自の手縫いの技術を習得する。実 際に仕上がった着物を着ることで和服を着る楽しさについても体験する。 <到達目標> (1)和服の構造や着方について理解している。 (2)単衣長着（浴衣）の製作を行うことができる。 (3)耳ぐけや三つ折りぐけなど、日本独自の手縫いの技術を習得している。				
授業の内容 進 め 方	1. 和服の歴史・構成および道具の説明と採寸・折型の製作 2. へらの使い方と手縫い・裁ち方図の説明 3. 裁断 4. 袖の印つけ・袖作り 5. 身頃の印つけ・背縫い 6. 脇縫い 7. 耳ぐけ 8. 衽作り 9. 衽付け 10. 裾縫い 11. 共衿つけ・三つ衿芯 12. 衿つけ 13. 袖つけ 14. 着方とたたみ方・レポート作成 15. まとめ・着装試験・作品撮影 定期試験は実施しない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。 参考書：滝沢ヒロ子『新しい和裁全書―基礎から大裁ち・綿入れまで』永岡書店				
準備学習の 具体的内容	遅延分の自主学習。 浴衣生地（1反）、糸（手縫い、ミシン）、裁縫道具を各自準備してください。				
評価の方法 基 準	課題作品（60%） レポート（20%） 授業態度（20%）				
履 修 上 の 注 意	手縫いとミシン縫いを併用します。 洋裁よりも制作時間がかかります。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実習Ⅳ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 衣服の構造の理解と造形技術の習得を深め、服飾造形に役立つ学習をする。 ワンピース（袖付き・裏付き衣服）の製作を通して人体計測・パターン作成・ドレーピング・パターンからデザイン創作、応用縫製技法・特殊素材と縫製機器の取り扱いなどを学習する。 【到達目標】 1. ワンピース（袖付き・裏付き衣服）をデザインから縫製まで行い、完成させることができる。				
授業の内容 進 め 方	1. ワンピースの解説・デザイン画の作図 2. パターンの作成（身頃・スカート） 3. パターンの作成（袖・衿） 4. 裁断・印付け 5. 組み立て 6. 試着・パターン修正・裏地裁断 7. 縫い代の始末・接着芯付け 8. ダーツ・肩縫い・裏地縫い 9. スカート作成 10. ファスナー付け 11. 袖作り 12. 袖付け 13. 衿ぐり 14. 仕上げ 15. 着装評価 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	誌上・パターン塾 Vol.4 ワンピース編（文化出版局 MOOK シリーズ） 参考図書『文化ファッション大系服飾造形講座ブラウス・ワンピース』 文化服装学院編				
準備学習の 具体的内容	必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題の提出物 (60%) レポート (20%) 授業中の態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	授業時間外の作業が発生する場合がある。 服飾造形実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子・武永 佳奈		
授 業 科 目	パターンメイキング (CAD) I	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 アパレルメーカーにおいて活用されているアパレル CAD (Computer Aided Design) システムを用いてパターンメイキングを行い、その基礎理論と作図技法を習得することを目的とする。また、CAD で行うパターンメイキングのメリット、デメリットを理解する。 【到達目標】 1. 簡単な作図をみて CAD を用いて作図ができる。 2. 身頃やスカートの原型を用い、ダーツ移動やデザイン展開ができる。				
授業の内容 進 め 方	1. パターンメイキングおよびCAD の概説・CAD の基本操作 (担当：乾・武永) 2. 上半身スローパーのデザイン展開 ダーツ移動 (担当：乾・武永) 3. 上半身スローパーのデザイン展開 ベーシックなブラウスの製図 身頃・ピンタック (担当：乾・武永) 4. 上半身スローパーのデザイン展開 ベーシックなブラウスの製図 衿・袖 (担当：乾・武永) 5. 上半身スローパーのデザイン展開 衿のバリエーション製図 (担当：乾・武永) 6. 上半身スローパーのデザイン展開 袖のバリエーション製図 (担当：乾・武永) 7. 下半身スローパーのデザイン展開 セミタイトスカート・フレアスカート・プリーツスカート等 (担当：乾・武永) 8. 下半身スローパーのデザイン展開 マーメイドスカート 2 種類 (担当：乾・武永) 9. ワンピースドレスの製図 プリンセスラインのワンピースの製図 (担当：乾・武永) 10. パンツの製図 ストレートパンツの製図 前 (担当：乾・武永) 11. パンツの製図 ストレートパンツの製図 後ろ (担当：乾・武永) 12. パターンの読み取り・補正 (担当：乾・武永) 13. パターンのプロッター出力 (担当：乾・武永) 14. まとめ・試験 (担当：乾・武永) 15. 振り返り (担当：乾・武永)				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布する。ファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	授業で行った内容を復習してくること。 前回の内容までできていない箇所はやっておくこと。				
評価の方法 基 準	課題 (50%) 試験 (30%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形論 (1 年次・前期) を履修していることが望ましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	パターンメイキング (CAD) II		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	【授業の主題】 ドレーピングによるパターンメイキングについて学び、衣服と人体の形態との関係を理解する。 工業用パターンに必要な縫い代付けや、グレーディング、マーキング、縫製仕様書について理解する。CAD システムの操作方法を学び、理解を深める。 【到達目標】 1. 簡単なスカート、ブラウスをドレーピングできる。 2. グレーディング、マーキング、縫製仕様書について説明できる。				
授業の内容 進 め 方	1. スカートのドレーピング 2. スカートのドレーピングの平面への展開 3. ブラウスのドレーピング 前身頃のドレーピング 4. ブラウスのドレーピング 後ろ身頃のドレーピング 5. ブラウスのドレーピング 前後身頃の平面への展開 6. ブラウスのドレーピング 襟のドレーピング 7. ブラウスのドレーピング 袖のドレーピング 8. ブラウスのドレーピング 襟・袖の平面への展開 9. グレーディング・スカート 10. グレーディング・身頃 11. CAD でのグレーディング 12. 縫い代付けの基礎と CAD を利用した縫い代付けの基本操作 13. マーキングの基礎と CAD を利用したマーキングの基本操作 14. 縫製仕様書の作成 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布します。指示に従ってファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	授業で行った内容を復習してくること。 前回の内容までできていない箇所はやっておくこと。				
評価の方法 基 準	各回の課題とレポート (60%) 試験 (20%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	パターンメイキング(CAD) I を履修しておくことがのぞましい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	デニム学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> ジーンズの街として知られる倉敷市児島の地域資源であるデニムについて、ジーンズの歴史や児島地区の特色を学び理解する。また、デニム素材の特徴やデニム製品ができるまでの工程についても知識を深め、デニム製品を適切に取り扱える知識を養う。さらに学んだ知識を生かし、簡易なデニム加工を実際に行える技術を習得する。 <到達目標> (1) ジーンズの歴史や児島のジーンズ文化について理解している。 (2) 製品としてのジーンズの製造工程を理解し、デニム製品を適切に取り扱える知識を身につけている。 (3) 家庭における簡易なデニム加工を行うことができる技術を習得している。				
授業の内容 進 め 方	1. ジーンズの歴史 2. 児島地区のジーンズ 3. デニム素材について(1)繊維・糸 4. デニム素材について(2)染色 5. デニム素材について(3)製織 6. デニム素材について(4)生地の特徴 7. ジーンズの副資材について 8. ジーンズの構造と特徴 9. ジーンズの縫製 10. 品質管理と製品検査, 洗濯堅牢度 11. 洗い加工と環境問題 12. デニム・ジーンズ製品の販売 13. デニム製品の取り扱いと注意 14. デニム加工の実践 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合（株）児島ファッションセンター その他、適宜配布。				
準備学習の 具体的内容	テキストの予習・復習する。				
評価の方法 基 準	試験(80%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	初回授業はテキストの販売を行います。欠席しないでください。 事前のテキスト購入は必要ありません。 ジーンズソムリエ資格認定試験を受験する人は、受講をお勧めします。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	デニム学演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 倉敷市児島の地域資源であるジーンズやデニムの知識を活かし、地元企業や公的機関と連携し、地域課題の発見や解決を行うプロジェクトに実践的に取り組む。サービスデザインについても学び、求められる企画やデザインについて考える力を養う。企画・制作はグループワークを行い、グループで協力し、コンセプト・企画の立案から実行まで行うことのできるコミュニケーション能力や実践力を培いながら、地域人材として活躍できる力を身につける。 <到達目標> (1) 地域人材としての課題の発見や解決ができる。 (2) 企画したプロジェクトを実行できる。 (3) グループで協力できるコミュニケーション能力やリーダーシップが身についている。				
授業の内容 進 め 方	1. ステーク・ホルダーマップの作成とニーズの調査 2. グループディスカッションとチャレンジマップの作成 3. コンセプトの決定と企画の立案 4. グループ分けと役割分担 5. プロトタイプ作成 6. プロトタイプの改良や効率化 7. ワークショップ準備 8. ワークショップの実施 ※場合によっては学外で行います。 9. 制作 (1) 身頃 ※制作物により工程が異なります 10. 制作 (2) 下半身 ※制作物により工程が異なります 11. 制作 (3) パーツ ※制作物により工程が異なります 12. 制作 (4) 装飾・仕上げ ※制作物により工程が異なります 13. 制作物の完成 14. 制作物のお披露目と評価 ※場合によっては学外で行います。 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜配布。 参考書：『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合（株）児島ファッションセンター				
準備学習の 具体的内容	遅延分の自主学習。 裁縫道具の準備。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) 授業態度 (20%) グループワーク (20%) リーダーシップ (10%)				
履 修 上 の 注 意	デニム学(1年・前期)を履修していることが望ましい。 学外活動を行う場合があります。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	高橋 敏子		
授 業 科 目	手工芸		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	【主題と概要】手工芸は服飾分野において重要な役割を担っています。その中で編物の分野においての基礎的な技術を習得します。 【到達目標】棒針、かぎ針などを使い技法を習得し、作品(ベスト、セーター、小物類等)を仕上げることを目標とします。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 基礎編みの学習 ①棒針編みの表編み, 裏編み 2. 基礎編みの学習 ②棒針編みのガーター編み, かのご編み 3. 基礎編みの学習 ③棒針編みの穴あき模様 4. ベスト, セーターなどの製図, ゲージの割り出し法, 採寸 5. 後身頃制作 目の作り方 6. 後身頃制作 袖ぐりの計算と編み方学習 7. 後身頃制作 肩下がりの計算と編み方学習 8. 後身頃制作 後ろ衿ぐりの計算と編み方学習 9. 前身頃制作 裾から袖ぐりにかけての編み方 10. 前身頃制作 前衿ぐりの計算と編み方学習, 袖の制作(セーターの場合) 11. 裾のゴム編みの学習 12. 肩はぎ, 衿と袖まわりのゴム編みの学習 13. 仕上げ, 着装, 作品の提出 14. 小物制作等 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省後援日本編物検定協会 手引き書「毛糸編物5級」 適宜プリント配布。				
準備学習の 具体的内容	授業で学んだ技法を復習しマスターしておく。				
評価の方法 基 準	課題の提出物の評価(50%) 意欲・応用力・研究的態度(50%)				
履 修 上 の 注 意	配布したプリントは毎回授業に持参すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾管理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	[主題] 衣服の着用においては外観の美しさを損なわないことや、汚れを落として衛生上にも清潔かつ快適な状態に保つことは大切なことである。 この授業では、衣服を繰り返し使用しても初期性能を変化させないために適切な洗濯方法や保管方法などを学び、さらには環境保全のために衣服の廃棄や洗濯排水と環境の関連を学ぶことを目的とする。 [到達目標] 本授業を通し、洗浄科学や保管と環境との関係について知識や理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	1. 衣服に要求される性能 2. 付着する汚れの種類 3. 汚れによる性能低下 4. 衣服の洗浄－洗濯用水 5. 衣服の洗浄－界面活性剤 6. 衣服の洗浄－衣料用洗剤に配合する添加剤 7. 家庭洗濯－洗浄力（温度，時間，浴比等） 8. 家庭洗濯－すすぎ，脱水，乾燥 9. 家庭洗濯－漂白，増白，しみ抜き 10. 家庭洗濯－糊付け，アイロンがけ 11. 商業洗濯－ドライクリーニング 12. 洗浄と環境問題 13. 衣服の保管－環境による変質，微生物による変質，虫害による変質 14. 衣生活の設計－衣服の廃棄，リユース，リサイクル 15. まとめ・筆記試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：片山倫子編著『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』建帛社 参考図書：大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
準備学習の 具体的内容	テキストを読了しておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%) 筆記試験 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子・道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾管理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実験	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	[主題] 被服を繰り返し利用する際の取扱いとして、初期の性能を変化させないために必要な洗濯や保管方法について学ぶことは重要である。これらの事柄について、実験を行うことにより被服の洗浄を学び、更に洗濯排水と環境問題との関連について考察する。 以下の計画に従って実験を行い、各実験についてレポートの提出を求める。 [到達目標] 洗濯や保管方法について実験を行うことにより被服の洗浄に関する理解度を深め、更に洗濯排水と環境問題との関連を理解する。				
授業の内容 進 め 方	1. 実験についての注意 (担当：佐藤・道明) 2. 石鹼の生成 (担当：佐藤・道明) 3. 界面現象の体験 (担当：佐藤・道明) 4. 臨界ミセル濃度の測定 (色素法) (担当：佐藤・道明) 5. 臨界ミセル濃度の測定 (毛細管上昇法) (担当：佐藤・道明) 6. 界面活性剤の作用 (浸透力, 再湿潤力) (担当：佐藤・道明) 7. 界面活性剤の作用 (乳化, 分散) (担当：佐藤・道明) 8. 界面活性剤の作用 (起泡, 消泡) (担当：佐藤・道明) 9. 水質硬度の測定 (担当：佐藤・道明) 10. 界面活性剤の分析 (定性分析) (担当：佐藤・道明) 11. 洗浄試験 (洗剤種類, 洗剤濃度) (担当：佐藤・道明) 12. 洗浄試験 (洗浄温度, 洗浄時間) (担当：佐藤・道明) 13. 形態安定加工 (担当：佐藤・道明) 14. 撥水加工 (担当：佐藤・道明) 15. まとめ (担当：佐藤・道明) 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子・道明伸幸著『服飾管理学実験 実験書』を授業時に配布する。 参考図書：片山倫子編著『衣の科学シリーズ 衣服管理の科学』建帛社 大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
準備学習の 具体的内容	「服飾管理学」テキストや講義ノートの確認。				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%) 提出レポート (80%)				
履 修 上 の 注 意	実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	古濱 裕樹		
授 業 科 目	染色加工学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	繊維の染色と加工を科学的に理解するための講義である。 染色とは繊維の価値を色によって高める行為である。染色の現象は、色素を繊維内部や表面に定着させることである。その現象について、染色や色素の歴史や文化についても触れつつ、化学的な側面から学ぶ。繊維製品の高機能化に貢献する種々の加工についても、発現原理から知る。服飾関係者にとって重要なことである衣類のトラブル事例や繊維製品と健康や環境の関わりについても理解する。 染料、染色、色に関する科学的理解を深め、その知識を社会や家庭生活等で自在に活用できる、質の高い社会人、生活者になることが目標である。				
授業の内容 進 め 方	1. 光と色 ～染色とは何か、色はなぜ見えるのか～ 2. 染色に必要な染料、薬剤、水 ～染料と顔料の違い、染料の歴史～ 3. 前処理工程 ～染色する繊維の準備について～ 4. 合成染料 (1) ～酸性染料、酸性媒染染料、含金属酸性染料、塩基性染料 (カチオン染料) ～ 5. 合成染料 (2) ～直接染料、反応染料、ナフトール染料～ 6. 合成染料 (3) ～建染染料、硫化染料、分散染料、酸化染料～ 7. 染色の現象と染色条件、および染色の方法 ～染色時の温度や液量が染まる濃さにおよぼす影響、様々な染色装置～ 8. 伝統染織 ～日本の各地で行われる伝統的な工芸染織～ 9. 天然染料 ～様々な天然染料の特徴～ 10. 変退色が起こる要因 ～なぜ色褪せるのかについての理解～ 11. 染色堅牢度 ～色褪せ、色移りのしやすさをはかる試験について～ 12. 色に関わるトラブル事例 ～服の着用や洗濯、保管などで起こるトラブルの原因と対処法～ 13. 染色の環境問題と安全性 ～染色廃水の問題や染料の毒性～ 14. 繊維加工 I ～外観、風合いを整える加工～ 15. 繊維加工 II ～機能を付与する加工～				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『染色加工学』牛田智、(一社) 日本衣料管理協会 『天然染料と衣服』青木正明、日刊工業新聞社				
準備学習の 具体的内容	初回授業日以降毎週、予習用のテキストと動画をクラスルームに掲載する。次回授業までに閲覧し、考察や質問を考え、クラスルームの質問課題に書き込む。 授業後はクラスルームに掲載した確認テストに回答する。				
評価の方法 基 準	予習資料閲覧による意見記入 -毎回実施、全 15 回- (50%) 授業後の確認テスト -毎回実施、全 15 回- (50%)				
履 修 上 の 注 意	Google クラスルームと Meet によるリアルタイム型の遠隔授業となる。毎回、授業開始時刻までにクラスルームトップページから Google Meet に入室すること。Google クラスルームのクラスコード : qdlbbxr				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾繊維学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	[授業の主題] アパレル企画、製造の現場をはじめ、消費者と接する販売、消費者相談の現場など、アパレルに関わるあらゆる立場において、繊維素材である高分子材料の特性に関する深い理解が要求される。この科目では繊維および高分子材料について学ぶ。 [到達目標] 本授業による学びを通して自然科学的な考え方を身につけ、服飾材料を扱うときさまざまな問題に出会い、また新しい素材に接したとき、自分自身でそれらを解明し、理解するための基礎的能力を養成する。				
授業の内容 進 め 方	1. 繊維とその仲間（高分子とその用途） 2. 物質の成り立ち（原子・分子、物質の状態、化学結合） 3. 糸の分子は糸のよう（分子構造と性質） 4. 糸のような分子を作る（高分子の合成） 5. ゴムとプラスチックと繊維（高分子材料、結晶と非晶） 6. 繊維の中にも結晶がある（結晶性高分子） 7. 硬いプラスチックもいつかは流れる（高分子の物性、粘弾性） 8. ゴムは不思議な物質（ゴム弾性） 9. 環境と高分子（リサイクル、生分解性繊維） 10. 天然繊維の種類と特性その1（植物繊維） 11. 天然繊維の種類と特性その2（動物繊維） 12. 化学繊維の種類・特性と製造その1（再生繊維、半合成繊維） 13. 化学繊維の種類・特性と製造その2（合成繊維） 14. 新しい繊維（新素材、ハイテク繊維） 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』, プリント				
準備学習の 具体的内容	事前にテキスト等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
評価の方法 基 準	試験 (80%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾繊維学実験			科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・前期	
授 業 の 主 題 標 目	[授業の主題] アパレル企画，製造の現場をはじめ，消費者と接する販売，消費者相談の現場など，アパレルに関わるあらゆる立場において，繊維に関する基礎知識は重要である。この科目では，実際に糸や布に触れ，その性質の基本的な測定法を体験する。 [到達目標] 基本的な測定法を体験することによって，繊維材料に対するより深い理解を得る。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 実験の心得（基本操作法，実験結果のまとめ方，レポートの書き方） 2. 糸の構造（繊維度） 3. 糸の構造（撚り，形態観察） 4. 布の構造（厚さ，目付，密度） 5. 繊維の鑑別（顕微鏡法，染色法） 6. 繊維の鑑別（溶解法） 7. 繊維の製造（1. ビニロンの紡糸） 8. 繊維の製造（2. アセタール化） 9. 布の構造（織組織） 10. 布の構造（糸密度） 11. 繊維の性質（引張試験） 12. 繊維の性質（応力緩和） 13. 繊維の性質（バイレック法，滴下法，浸せき法） 14. 繊維の性質（乾燥性） 15. レポート作成指導 定期試験は実施しない					
実務経験を活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』，服飾材繊維実験書（開始時に配布する。）					
準備学習の具体的内容	事前に実験書，参考書等をよく読んで内容を把握しておく。					
評価の方法基準	レポート（80%） 受講態度（20%）					
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾材料学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	[授業の主題] アパレル企画、製造の現場をはじめ、消費者と接する販売、消費者相談の現場など、アパレルに関わるあらゆる立場において、服飾材料に関する基礎的および実用的知識が不可欠である。服飾材料の性質は服飾繊維学で学んだ繊維そのものの性質と、この科目で学ぶ繊維集合体としての性質によって決まる。この科目では繊維集合体としての糸や布の製造方法と、構造ならびに性質および消費性能を学ぶ。 [到達目標] 繊維集合体としての糸や布の製造方法と、構造ならびに性質および消費性能を学びつつ、繊維製品を扱う上で関係する自然科学的現象を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. はじめに（繊維集合体の構造と性質） 2. 糸の分類と構造 3. 布の分類と製造（織物） 4. 布の分類と製造（編物） 5. 布の分類と製造（不織布、皮革など） 6. 布の加工と構造 7. 被服材料の性能（保温性、通気性） 8. 被服材料の性能（吸水性、吸湿性） 9. 被服材料の性能（力学的性質） 10. 被服材料の性能（外観的性質、風合い） 11. 繊維製品の品質表示 12. 品質管理と品質保証 13. 繊維製品の試験法と消費者クレーム 14. アパレルと工学 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 プリント				
準備学習の 具体的内容	事前にテキスト等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
評価の方法 基 準	試験（80%） 受講態度（20%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	服飾材料学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	[授業の主題] アパレルに関わるあらゆる立場において、糸や布などの服飾材料の特性は、衣服の取り扱いや快適性、審美性に影響する重要な要因である。本科目では実験を通してこれらを体験的に理解するとともに、繊維製品試験法の原理・測定方法・評価方法を学ぶ。 [到達目標] 実験を通してこれらを体験的に理解するとともに、繊維製品試験法の原理・測定方法・評価方法を学び、実務に役立つ知識として体得する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 実験の心得（実験結果のまとめ方，レポートの書き方） 2. 糸の性能（強伸度・ヤング率） 3. 布の性能（破裂強度） 4. 布の性能（強伸度，破裂強度） 5. 布の性能（ピリング性） 6. 布の性能（耐摩耗性） 7. 布の性能（剛軟度） 8. 布の性能（プリーツ性） 9. 布の性能（ドレープ性） 10. 布の性能（通気度） 11. 布の性能（保温性） 12. 縫製試験（縫目滑脱性） 13. 縫製試験（縫い縮み率） 14. コンピュータによる着装シミュレーション（ヴァーチャルブティック） 15. コンピュータによる着装シミュレーション（動的シミュレーションとドレープ予測） 定期試験は実施しない				
実務経験を活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	島崎恒蔵 編著『衣服材料の科学[第3版]』 服飾材料学実験書（開始時に配布する。）				
準備学習の具体的内容	事前に実験書，参考書等をよく読んで内容を把握しておく。				
評価の方法基準	レポート（80%） 受講態度（20%）				
履 修 上 の 注 意	実験用白衣の着用				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間環境学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	[主題] 快適な被服をデザインするためには、ヒトの生理的特徴、形態的特徴、運動的特徴、心理的側面等を知ることが重要である。この授業では、ヒトを衛生的見地より学ぶことを目的とする。 [到達目標] ヒトの生理的特徴、形態的特徴、運動的特徴、心理反応の知識と理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	1. 衣服の着用目的と機能 2. 体温調節反応－体温、皮膚温、平均皮膚温 3. 体温調節反応－産熱と放熱 4. 体温調節反応－不感蒸泄と発汗 5. 体温調節反応－皮膚の構造、皮膚感覚 6. 体温調節反応－温冷感と快適感 7. 温熱評価 8. 衣服気候－衣服材料と衣服気候 9. 衣服気候－衣服の保温性、衣服重量 10. 衣服圧の影響 11. 衣服の汚れ、皮膚障害 12. 静電気・磁気による影響 13. 身体の動き 14. 特殊服 15. まとめ・筆記試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 大野静枝・石井照子編著『衣生活の科学－衣生活論－』建帛社				
準備学習の 具体的内容	テキストを読了しておくこと。				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%) 筆記試験 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間環境学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 標 目	[主題] 快適な被服をデザインするためには、ヒトの生理的機能、形態、運動的機能、心理的側面等を知ることが重要である。 この授業では、それらの基本的な測定法を学び、ヒトに対する基礎的な理解を得ることを目的とし、ヒトの形態や基本的な生理機能についての測定を行うとともに、温熱環境の測定等を通し、相互の生体反応の関係について学習する。具体的には、以下の項目に沿って実験を行い、各実験についてレポートの提出を求める。 [到達目標] 本授業を通し、ヒトの生理反応や心理反応に対する理解を深める。				
授業の内容 進 め 方	1. 「実験 1」 環境温湿度の測定 2. 「実験 2」 衣服重量の測定 I (クロー値) 3. 実験 1・2 の解説と実験 3～5 の説明 4. 「実験 3」 皮膚温の測定 I (寒冷暴露) 5. 「実験 4」 血圧の測定 (姿勢変化, 測定法の差異) 6. 「実験 5」 生体計測 I (形態寸法と物との関わり) 7. 実験 3～5 の解説と実験 6～8 の説明 8. 「実験 6」 心拍数の測定 (運動負荷) 9. 「実験 7」 心理学的測定法 (一対比較法, 評価尺度法, 順位法) 10. 「実験 8」 生体計測 II (姿勢変化) 11. 「実験 9」 衣服重量の測定 II (季節変化) 12. 実験 6～9 の解説と実験 10～12 の説明 13. 「実験 10」 衣服内温湿度の測定 (衣服気候) 14. 「実験 11」 風合いの測定 (官能検査) 15. 「実験 12」 皮膚温の測定 II (運動負荷) 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著『服飾人間環境学実験 手引書』を授業時に配布する。 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
準備学習の 具体的内容	「服飾人間環境学」講義ノートや使用テキストを参考にすること。				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%), 提出レポート (80%)				
履 修 上 の 注 意	実験に適した動きやすい服装・履物で受講すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	服飾人間工学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	[主題] 快適な被服をデザインするためには、被服がヒトに与える影響を把握するとともに、ヒトの生体機能をより詳細に分析する必要がある。 この授業では、生理学的側面を把握できる測定法について学習し、それらを基に、あらゆる側面から被服を評価する手法を学ぶ。 服飾人間環境学実験で学んだ方法を応用し、更に簡単な電気生理学を用いた実験を行う。具体的には、以下の項目についての実験を実施し、自律神経機能の総合的な解析を行い、各実験についてレポートの提出を求める。 [到達目標] 本授業を通し、ヒトの生体反応に対する理解を深めることを目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1. 基礎体温の測定 2. 体温について 3. 「実験 1」 体温の測定（運動負荷の差異） 4. 「実験 2」 体温の測定（被覆面積の差異） 5. 湿度に関わる温熱性の快適感について 6. 「実験 3」 皮膚血流および発汗量の測定（湿度の差異、運動負荷） 7. 心電図について 8. 「実験 4」 心電図の測定 9. 筋電図について 10. 「実験 5」 筋電図の測定（重さの影響－上肢） 11. 「実験 6」 筋電図の測定（運動負荷の影響－下肢） 12. 脳波について 13. 「実験 7」 脳波、眼球電図の測定（各種状況下） 14. 総合的な解析 15. まとめ・筆記試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著「服飾人間工学 プリント」を授業時に配布する。 参考図書：田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
準備学習の 具体的内容	「服飾人間環境学」講義ノートや使用テキストを参考にすること。 「服飾人間環境学実験 手引書」を参考にすること。				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%) 提出レポート (50%) 筆記試験 (30%)				
履 修 上 の 注 意	婦人体温計を各自準備すること。 「服飾人間環境学」「服飾人間環境学実験」を単位取得していること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	西田草介・安田裕・松田広樹・高田尚志・武鍵篤志・福川太郎・田代祐希		
授 業 科 目	ファッション企画論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	変化の著しいファッションの流通の中で、市場のニーズを理解し、製品企画することは企業の要である。 この科目では、ファッション企画に特化して、繊維・ファッション関連の企業から講師を招き講義していただく。 【授業の主題】 製品企画についての企業ポリシーおよび、企画立案から商品化までの具体的な過程や手法を知ることにより実践的なファッション企画の専門知識を身につける。 【到達目標】 1. 企画への理解を深め、留意点をまとめられる。 2. 商品を企画し、企画書を作成する。				
授業の内容 進 め 方	1. ジーンズの現場から ～個人の役割と業界のなりたち～ (西田草介) 2. 産業観光の現在 レポート発表 (西田草介) 3. オリジナル付属パーツの役割と種類 (安田 裕) 4. オリジナル付属パーツ企画時の留意点 (安田 裕) 5. 児島の繊維産業の歴史からジーンズが誕生するまで (松田広樹) 6. SNSを活用した商品企画及び販売（グループワーク） (松田広樹) 7. 畳縁製造業の事業概要とこれまでに開発してきた商品の事例 (高田尚志) 8. 畳縁の商品企画と営業企画について (高田尚志) 9. 倉敷の帆布生地製造業の歴史と素材の特徴を説明し、最終製品になるまでの手順・考え方 (武鍵篤志) 10. 帆布生地によるひとつのブランドを例に新製品が生まれるまでの企画の手順・考え方 (武鍵篤志) 11. 大学卒業後、一般企業に就職してから児島でオリジナルデニムブランドを起業するまでの体験 (福川太郎) 12. 個人縫製業で生活していくためのお金の話 (福川太郎) 13. 企画手順および事例紹介 (田代祐希) 14. 演習①（アイディアの思考と発想法） (田代祐希) 15. 演習②（商品企画） (田代祐希) 定期試験は行わない 各教員の担当順は都合により変更することがある。				
実務経験を 活かす内容	市場のニーズの分析と、企業独自の具体的な企画の進め方などを講じる。				
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布。 西田先生参考図書：ジーンズソムリエ公式テキスト ジーンズソムリエプロジェクト事務局発行 西田先生参考動画：Betty Smith Movie “JEANS” https://youtu.be/YSBhpmLGPOc 安田先生参考図書：「家庭用品品質表示法ガイドブック」 https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/household_goods/pamphlet/pamphlet_01.html 安田先生参考図書：「家庭用品品質表示法ハンドブック」 https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/household_goods/pamphlet/pamphlet_02.html 田代先生推薦図書：「9割の社会問題はビジネスで解決できる」著 田口一成 PHP 研究所 2021年				
準備学習の 具体的内容	繊維・ファッション関連の企業のホームページを事前に見ておく。				
評価の方法 基 準	課題 80% 授業への積極性 20%				
履 修 上 の 注 意	実務経験者による直接講義につき、是非多くの学生に履修してもらいたい。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇・大原 啓市・廣野 誠		
授 業 科 目	ビジネス基礎		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> ビジネス基礎用語の理解を深める。 ビジネスに最低限必要な知的財産権の理解を深め、知識を習得する。 ビジネス基盤となる「地域」について調査の切り口から理解する。 <到達目標> (1) ビジネス基礎用語の知識を理解し、そのための方法論を習得している。 (2) 知的財産権に関する法律の基礎を理解習得している。 (3) 「地域」を学ぶ上での基本的方法論を理解している。				
授 業 の 内 容 進 め 方	【ビジネス基礎用語 1】ドル円相場、為替レート；アートとビジネスについて（担当：大原） 【ビジネス基礎用語 2】地政学と本主義・社会主義【Google Earth で理解する】（担当：大原） 【ビジネス基礎用語 3】サブスクリプション、組織論、護送船団方式、終身雇用制度と成果主義（担当：大原） 【ビジネス基礎用語 4】情報セキュリティの 3 要素と 7 要素（担当：大原） - まとめ・テスト（第 1 回から第 4 回までの課題について）（担当：大原） - デザイナーのための知的財産法（担当：岩崎） - ブランドを守るには～商標法の世界（担当：岩崎） - デザインを守るには～意匠法の世界（担当：岩崎） - 技術を守るには～特許法の世界（担当：岩崎） - 著作物を守るには～著作権法の世界（担当：岩崎） - 地域を知るための調査方法（担当：廣野） - 地域を知るための文献資料調査（担当：廣野） 地域を知るための統計データ（担当：廣野） - 地域に関する論文・レポートの書き方（担当：廣野） - 地域に関するプレゼンテーションの方法（担当：廣野） 定期試験は実施しない。 - 各教員の担当順は都合により変更することがある。 - 受講生の学修状況や理解度を見て、進度や順序を調整する場合がある。 - 第 1 回から第 4 回までの授業では、各回において配布資料をもとに解答を作成し、Google Classroom 課題として提出を求める。 - 授業で取り込んだ課題について第 5 回目授業時にテストを行う。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	なし（授業内において資料を適宜配布する。）				
準備学習の 具体的内容	テキストおよび配布資料を用いて予習・復習を十分に行うこと				
評価の方法 基 準	課題(40%)，試験(40%)，授業態度(20%)【大原担当】 課題(80%)，授業態度(20%)【岩崎，廣野担当】				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	経済学入門		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> (1) 経済学の基礎となる知識・考え方を講義する。 (2) 今後に履修する経済学系科目と関連付けながら、経済学の幅広い分野について講義する。 (3) 現実の社会問題を経済学的視点から解釈する。 <到達目標> (1) 経済学を学ぶための前提となる基礎的な知識を身に付ける。 (2) 現実の社会問題を経済学の視点からとらえることを習慣付ける。 (3) 経済学の基礎的な用語・概念を他者に説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 経済学とは <経済学の考え方> 2. ミクロ経済学 (1) 家計行動 3. ミクロ経済学 (2) 企業行動 4. マクロ経済学 (1) 国民経済計算 5. マクロ経済学 (2) 経済の成長 6. 産業構造の変化 7. 金融の仕組み 8. 金融市場と金融政策 9. 日本の財政 10. 財政と税制 11. 少子高齢化 12. 人口減少と社会保障 13. 世界経済と日本経済 14. グローバル化と貿易 15. まとめ・試験 定期試験は実施する				
実務経験を 活かす内容	なし				
テ キ ス ト 教 材	講義資料を配布 参考書：『日本経済と公共部門のダイナミクス』2021 年，晃洋書房，（著）南波他，				
準備学習の 具体的内容	講義資料の予習（30 分），講義内容の復習（60 分）				
評価の方法 基 準	授業態度（20%） 授業中で行う演習課題（20%） 定期試験（60%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇（実務経験あり）		
授 業 科 目	経営学入門		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> 経営学に関する基礎的研究，及び経営学に関する基礎的事例研究について理解する。具体的には，企業の経営戦略，経営管理，人的資源管理，会計・財務，生産・研究開発，マーケティングなどの主要論点を学ぶ。 <到達目標> (1)経営学の全体像の理解ができている。 (2)経営学で用いられる基本的用語の理解ができている。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 会社の経営とは 2. 経営戦略(1) 会社はどのような方針で動くのか 3. 経営戦略(2) 会社はどんな仕組みで動いているのか 4. 経営戦略(3) 会社はどう競争するのか 5. マーケティング(1) 会社はどのようにモノを売するのか 6. マーケティング(2) 会社はどのように市場を理解するのか 7. 経営管理と組織(1) 会社はどのように管理されるのか 8. 経営管理と組織(2) 会社はどのような組織なのか 9. 人的資源管理(1) 社員はなぜ働くのか 10. 人的資源管理(2) 社員はどのように報酬を求めるのか 11. 生産管理 会社はどのようにモノを生産するのか 12. 製品開発 会社はどのように製品を開発するのか 13. 会計 会社はカネをどう管理するのか 14. 企業倫理 会社はどんな社会的責任があるのか 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施				
実務経験を 活かす内容	一般企業での実務経験を生かし，個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・評価・修正課程（PDCA サイクル）に関して実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 井原久光（編）2016,『経営学入門・キーコンセプト』ミネルヴァ書房				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で，特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	高橋 正徳		
授 業 科 目	法学入門		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【主題と概要】 この授業では、法学のいくつかの主要な分野について、その仕組みや基礎となる考え方を学ぶことにより、法学に関する基本的な事柄を理解する。 【到達目標】 現代日本の法学についての基本的理解を通じて、実社会の中で、主権者として自ら考え、行動する力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 法学とは何か 2. 個人と家族 (1) — 基本的人権と家族 3. 個人と家族 (2) — 現代の家族問題 4. 契約と自己責任 (1) — 民法の基本原則 5. 契約と自己責任 (2) — 契約と所有権 6. 保護と救済 (1) — 消費者問題 7. 保護と救済 (2) — 公害問題 8. 企業と資本主義 (1) — 企業活動に関する法 9. 企業と資本主義 (2) — 取引と企業結合 10. 労働と社会保障 (1) — 労働者の権利 11. 労働と社会保障 (2) — 生存権と社会保障 12. 犯罪と刑罰 (1) — 犯罪と刑罰 13. 犯罪と刑罰 (2) — 刑事手続 14. 国家と条約 (1) — 国際社会の誕生と発展 15. 国家と条約 (2) — 国際社会の現状と課題 最終回の中で、定期試験を実施する。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<テキスト>：『高校から大学への法学〔第2版〕』，君塚正臣編，法律文化社 <参考書等>：小型の六法（もしあれば，どれでもよい） なお，適宜，レジュメ・資料を配付する。				
準備学習の 具体的内容	毎回，テキストの該当部分を予習・復習する。				
評価の方法 基 準	小テスト（30%）および定期試験（70%）により評価する。				
履 修 上 の 注 意	新聞やニュースなどにより，日々の政治，経済，社会の動きをできるだけ把握しておくことが望ましい。				

科	服飾美術学科	担 当 教 員	増子 和起		
授 業 科 目	簿記論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	本講義は簿記の世界の入口へと受講生を案内し簿記の基本を身に付けることを目的とした講義です。日常生活に関わるお金の収入や支出、貯金額を管理していくには、しっかりと家計簿をつけることが有効ですが、それと同じように、企業でも収入や支出や貯金などお金のことを記録して管理するのがとても重要です。家計簿とは違って、会社の書類は誰が読んでも分かることが必要ですから、記録の方法があらかじめ決まっています。その記録の方法が、この講義で学ぶ「簿記」というものです。つまり、簿記を学んでいくと、会社のお金に関する書類を作成できるようになります。それだけでなく、勉強を進めていくと、どこか別の会社の書類を読み解いて、その会社が儲かっているかどうかなどを調べることもできるようになります。				
授 業 の 内 容 進 め 方	【授業の概要及び授業の進め方】 はじめて簿記を学ぶ人を想定して簿記の基本を中心に講義します。簿記とはそもそも何なのか、何のために簿記を学ぶのか、簿記と会計との関係はどうなっているか、などの基礎の基礎から出発し、最終的には試算表という会社のお金に関する書類（簡単なもの）を作成するところまでを対象に勉強を進めていきます。2017 年から新しくはじまった「日商簿記初級試験」参考書をテキストとして、毎回の講義で解説を加えながら読み進め、練習問題を一緒に解くことで上記の授業目標を達成できるようにします。試験では、テキストの内容すべてを対象として、知識が身についているか、書類を作成できるかを確かめていきます。 【授業内容】 1. 簿記とは何か：簿記の意義、簿記と会計の関係を学びます。 2. 簿記のルール：取引と仕訳、および資産、負債、資本、収益、費用の意味を学びます。 3. 簿記の基礎：仕訳を実際に行なってみます。 4. 商品売買：商品売買に関する仕訳を学びます。 5. 現金・預金：現金・預金および小切手などの現金同等物に関する仕訳を学びます。 6. 手形と電子記録債権：約束手形およびインターネットを利用した債権・債務に関する仕訳を学びます。 7. 貸付金・借入金：お金の貸し借りに関する仕訳を学びます。 8. その他の取引(1)：未払金・未収金といった債権・債務に関する仕訳を学びます。 9. その他の取引(2)：立替金・預り金・消耗品に関する仕訳を学びます。 10. 固定資産：店舗や事務所、トラックなどの長期的に使うものに関する仕訳を学びます。 11. 租税公課と消費税・資本金：税金および資本金に関する仕訳を学びます。 12. 帳簿への記入(1)：仕訳帳と総勘定元帳への記入を学びます。 13. 帳簿への記入(2)：試算表の作成方法について学びます。 14. 伝票と仕訳日計表：伝票会計を学びます。 15. これまでの総復習及び試験：これまでの講義の中から身に付けておくべきポイントをおさらいします。 定期試験は実施する 【ICT 活用】 ・Google Class Room を使って講義資料を配布するとともに受講者からの質問を受け付けます。 ・Google Class Room に講義動画を掲載します。復習用の教材として役立ててください。 【備考】 本講義の講義内容を十分に理解すれば、日本商工会議所が実施している民間資格である「日商簿記初級試験」に合格できる程度の力が身につきます。日商簿記初級試験は履歴書の資格欄に書ける資格ですし、上位級である日商簿記試験 3 級・2 級・1 級と自分の力の足掛かりとすることができる試験です。簿記を理解して就職活動に活かしたい人は積極的に試験を受けてみることを推奨します。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【テキスト】 滝澤ななみ・TAC 出版開発グループ 2019『スッキリわかる 日商簿記初級 第3版』TAC 出版。ISBN-10: 4813287360 ※ 2022 年 11 月時点の情報です。最新版を購入してください。 【参考書・参考資料等】 適宜授業の際に紹介します。				
準備学習の 具体的内容	・テキストの該当箇所について予習・復習をしてください。 ・各回の講義後演習問題に取り組んでください。該当箇所は毎回の講義で指示します。				
評価の方法 基 準	・授業内課題(60%)：授業の最後にその回で学んだ簡単な振返り課題を提出してもらいます（5 分程度）。 ・試験(40%)：最終講義で授業の主題で掲げる目標を達成できたかを確認するためにテストを実施します。				
履 修 上 の 注 意	・本科目では毎回の講義で電卓を利用します。安価なもので構わないので準備してください。 ・スマートフォンに搭載されている電卓機能は講義中利用不可です。ご注意ください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇（実務経験あり）		
授 業 科 目	マーケティング論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<授業の主題> マーケティングに関する基礎的研究，およびマーケティングに関する基礎的事例研究について理解する。 <到達目標> 1. マーケティングに関する基本的な知識の習得ができています。 2. 会社組織のマーケティングの役割を理解できている。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス マーケティングとは 2. 顧客価値と顧客満足 顧客価値および顧客満足のかえ方 3. 戦略マーケティング 競争及び戦略への取り組み 4. STP 市場細分化のかえ方 5. マーケティング・リサーチ 市場調査方法のかえ方 6. 消費者行動 顧客ニーズを高める方法 7. 製品戦略 製品開発のかえ方 8. 価格戦略 価格の設定方法 9. 流通戦略 流通業者の取り組み 10. プロモーション戦略 プロモーション手段の特徴 11. マーケティング・コミュニケーション コミュニケーションとは 12. サービス・マーケティング サービス業におけるマーケティング 13. ブランド戦略 ブランドの重要性とブランド価値 14. ソーシャル・マーケティング 非営利組織のマーケティング 15. まとめ・試験 これまでの授業内容を振り返りと試験の実施				
実務経験を 活かす内容	一般企業での実務経験を生かし，個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・評価・修正課程（PDCA サイクル）に関して実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 草野基雄，2017，『入門・マーケティング論（第5版）』八千代出版				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で，特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	消費者行動論			科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期	
授業の主題 目 標	<授業の主題> 人々が様々な場面でどのような消費行動をとっているかを理解し、消費者行動に基づいた企業によるマーケティング上の工夫について学ぶ。 <到達目標> 1. 消費者の消費行動の全体像の理解ができています。 2. 消費者の消費行動に関する基本的研究の理解ができています。					
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 消費者行動とは 2. 知覚 3. 学習 4. 記憶 5. 態度 6. 意思決定 7. セグメンテーション 8. コミュニケーション 9. 店頭マーケティング 10. アイデンティティ 11. 家族 12. 集団 13. ステイタス 14. サブカルチャー 15. まとめ・試験					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 松井剛他, 2020, 『1 からの消費行動<第 2 版>』碩学舎					
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。					
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。					
履 修 上 の 注 意	なし					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ファッションビジネス		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> アパレルに関する商品企画の視点から、これらに関する基礎的事項、および実例について理解する。 <到達目標> 1. マーケティングプロセスに従い服飾企画を中心にファッションビジネス全体について理解できている。 2. 製品政策, 売場政策, プロモーション政策, 価格政策について理解できている。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス 服飾企画とは 2. 戦略的マーケティングの展開 3. 戦略的マーケティングの進め方 4. アパレル市場機会の分析 5. 消費者市場の分析 6. 新しいマーケティング目標の設定 7. 標的市場の選定 8. 製品政策の企画 (マーケティング・ミックス) 9. 製品政策の企画 (商品に関する要素と仕組み) 10. 売場政策の企画 11. 販売促進政策の企画 12. 価格政策の企画 13. マーケティングの実施と結果の点検 14. ファッションビジネス全体について 振り返り 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 日本ファッション教育振興協会, 2018, 『ファッションビジネス (Ⅱ)』 繊維工業構造改善事業協会, 1990, 『アパレルマーケティング I - 基礎理論と実務対応』				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	マーケティング戦略論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	<授業の主題> マーケティング戦略に関する基礎研究, および事例研究について理解する。 <到達目標> (1) マーケティング戦略に関する基礎研究の理解ができています。 (2) マーケティング戦略に関する事例の理解ができています。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業概要・ガイダンス マーケティング戦略とは 2. 競争戦略, および事例研究 (1) 3. セグメンテーションとターゲティング, および事例研究 (2) 4. ポジショニング, および事例研究 (3) 5. 消費者行動, および事例研究 (4) 6. マーケティング・リサーチ, および事例研究 (5) 7. 新製品開発, および事例研究 (6) 8. 価格戦略, および事例研究 (7) 9. 流通戦略, および事例研究 (8) 10. マーケティング・コミュニケーション戦略, および事例研究 (9) 11. ブランド戦略, および事例研究 (10) 12. サービス・マネジメント, および事例研究 (11) 13. 経験価値マーケティング, および事例研究 (12) 14. リレーションシップ・マーケティング, および事例研究 (13) 15. まとめ・試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 青木幸弘他, 2015, 『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣ブックス 和田充夫他, 2016, 『マーケティング戦略 第5版』有斐閣アルマ				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で, 特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%)と中間レポート(20%)により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	消費者調査法		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	<授業の主題> 消費者の行動の実態や意識を把握するためには何らかの調査が必要である。調査を実際に体験することで、消費者調査を正しく行うための知識を身につけ、正しく理解する。 <到達目標> 消費者調査の基本的方法論の理解ができています。				
授 業 の 内 容 進 め 方	消費者調査法について以下の項目について学習する。エクセルと SPSS による統計処理も含めて演習を行う。 1. 消費者調査法とは 2. 消費者調査法の種類と方法 3. 調査票の作成 4. 調査対象者の選び方（標本調査・標本抽出法） 5. 集計と分析 6. 衣料の諸費実態調査 7. 総合演習（質問紙調査） 8. グループ分けおよび調査内容の立案 9. 予備調査票の作成および相互実施（プレゼン①） 10. 本調査票の作成および実施 11. 調査の集計と分析 データ入力および統計処理 12. 調査報告資料の作成 目的・方法 13. 調査報告資料の作成 分析と結果 14. 発表会・反省検討会（プレゼン②） 15. 報告書の添削とディスカッション 定期試験は実施しない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	【参考文献】 （社）日本衣料管理協会/新版消費者調査法/（社）日本衣料管理協会				
準備学習の 具体的内容	エクセルによる基本統計量の計算はできるようにしておくこと。				
評価の方法 基 準	2 回のプレゼン内容（50%），報告書内容（50%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	基礎経済学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	本講義は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論について考察することが目的である。現代経済学において、数学的な考え方は欠かせないが、必ずしも数学的な考え方に頼らずに考察を深める。到達目標は、経済学の基礎理論や考え方を身に付けることである。				
授業の内容 進 め 方	1. イントロダクション 2. 経済学の基本的な考え方と理論 3. ミクロ経済学 (1) 市場における需要と供給 4. ミクロ経済学 (2) 需要の弾力性と供給の弾力性 5. ミクロ経済学 (3) 市場均衡と効率性 6. ミクロ経済学 (4) 政府の介入 7. ミクロ経済学 (5) 消費者の選択と企業の行動 8. ミクロ経済学 (6) ミクロ経済学のまとめ 9. マクロ経済学 (1) 国内総生産 10. マクロ経済学 (2) 総需要と総供給 11. マクロ経済学 (3) インフレーションとデフレーション 12. マクロ経済学 (4) 貨幣システム 13. マクロ経済学 (5) 生産と成長 14. マクロ経済学 (6) 国際収支と為替相場 15. マクロ経済学 (7) マクロ経済学のまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	N・グレゴリー・マンキュー (足立英之 他訳) (2019) 『マンキュー入門経済学(第3版)』 東洋経済新報社 N・キンティニー (月沢李歌子 訳) (2018) 『若い読者のための経済学史』 すばる舎 齊藤誠 (2021) 『教養としてのグローバル経済』 有斐閣 横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム (2019) 『ゼロからはじめる経済入門』 有斐閣				
準備学習の 具体的内容	新聞やWebなどで日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。 日常生活の場面で経済理論を当てはめて考えると理解が深まる。				
評価の方法 基 準	期末レポート (90%) 授業内課題 (10%)				
履 修 上 の 注 意	講義内容は、学生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 経済学入門もしくは経営学入門を履修していることが望ましい (必須条件ではない)。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	地域産業論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	本講義では、地域産業の主たる担い手である中小企業に焦点をあて、地域産業を考える上で必要な理論や各地の事例を踏まえながら、地域産業の活性化策について考えることを目的とする。到達目標は、地域産業政策ならびに中小企業政策の変遷について理解すること、ファッション産業が抱える諸問題や繊維産地の諸問題を関連付けて理解することを通じて、地域産業政策を提言できようになることである。				
授業の内容 進 め 方	1. イントロダクション 2. 産業と企業 3. グローバル化と地域産業 4. 大企業のグローバル化戦略 (1) 生産と流通 5. 大企業のグローバル化戦略 (2) 水島コンビナート 6. 地域の中小企業 (1) 中小企業 7. 地域の中小企業 (2) 地場産業 8. 地域の中小企業 (3) 中小企業政策 9. 繊維産業 (1) 歴史と発展 10. 繊維産業 (2) 技術の蓄積と継承 11. 繊維産業 (3) ファストファッションの問題点 12. 産業と観光 (1) 児島 13. 産業と観光 (2) 倉敷美観地区 14. 産業と観光 (3) 茶屋町 15. 講義まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	長田華子 (2016) 『990 円のジーンズがつくられるのはなぜ?』 合同出版 長山宗広 編 (2020) 『先進事例で学ぶ 地域経済論×中小企業論』 ミネルヴァ 書房 渡辺幸男 他 (2022) 『21 世紀中小企業論 (第 4 版)』 有斐閣 加藤秀雄 他 (2022) 『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』 文眞堂				
準備学習の 具体的内容	自分自身が地域産業の担い手として認識をもって授業に臨むこと。 新聞や Web など日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。				
評価の方法 基 準	期末レポート (90%) 授業内課題 (10%)				
履 修 上 の 注 意	講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 フィールドワーク (もしくはバーチャルツアー) を実施することがある (土日実施の可能性もある)。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	まちづくり論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	本講義では、受講生自身がまちづくりの担い手であることを意識しながら、身近な地域を取り巻く諸問題とその問題の解決策を提言できるようになることが目的である。到達目標は、まちづくりの担い手として地域の諸問題を把握し政策提言できることようになることである。				
授業の内容 進 め 方	1. イントロダクション 2. まちづくりが求められる背景 3. 都市一極集中と地域衰退 4. まちづくりの担い手と住民運動 5. 地域政策 (1) 地域政策と個別政策 6. 地域政策 (2) 国と地方自治体 7. 地域政策 (3) 地方財政 8. まちづくり事例 (1) 歴史 9. まちづくり事例 (2) 芸術と文化 10. まちづくり事例 (3) 生活とコミュニティ 11. まちづくり事例 (4) 商業 12. まちづくり事例 (5) 産業 13. まちづくり事例 (6) 観光 14. まちづくり事例 (7) 環境 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	木下 斉 (2018) 『地元がヤバい…と思ったら読む 凡人のための地域再生入門』ダイヤモンド社 金子勝 (2019) 『平成経済衰退の本質』岩波書店 鈴木誠 (2019) 『戦後日本の地域政策と新たな潮流 分権と自治が拓く包摂社会』自治体研究社 岡田知弘 (2020) 『地域づくりの経済学入門 地域内再投資力論』				
準備学習の 具体的内容	自分自身がまちづくりの担い手として認識をもって授業に臨むこと。 身近な地域（出身地や倉敷市など）のまちづくりに注目すること。				
評価の方法 基 準	期末レポート (90%) 授業内課題 (10%)				
履 修 上 の 注 意	講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 フィールドワーク（もしくはバーチャルツアー）を実施することがある（土日実施の可能性もある）。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	経済政策論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	本講義では、経済のしくみを踏まえながら、経済政策が講じられる背景とその課題について考察する。経済政策の概念は広いが、生活に身近な経済政策に主眼を置いて考察を深めることが到達目標である。				
授業の内容 進 め 方	1. イントロダクション 2. 公共政策と政策科学 3. 経済のしくみと経済政策 4. 経済政策の歴史 5. グローバル化と経済政策 6. 消費者政策 (1) 生活と消費者運動 7. 消費者政策 (2) 消費と政策 8. 雇用・労働政策 (1) 労働問題と労働運動 9. 雇用・労働政策 (2) 労働と政策 10. 中小企業政策 (1) 中小企業問題 11. 中小企業政策 (2) 中小企業と政策 12. 中小企業政策 (3) 創業支援 13. 環境政策 (1) 環境問題 14. 環境政策 (2) 環境と政策 15. 講義まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	岡田知弘 他 (2016) 『入門 現代日本の経済政策』法律文化社 櫻井純理 編 (2021) 『どうする日本の労働政策』ミネルヴァ書房 佐竹隆幸 他 (2021) 『中小企業政策論』ミネルヴァ書房 安藤信雄 (2021) 『多様性と持続可能性の視点で考える中小企業論』同友館				
準備学習の 具体的内容	身近な経済政策に興味をもって授業に臨むこと。 新聞やWebなどで日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。				
評価の方法 基 準	期末レポート (90%) 授業内課題 (10%)				
履 修 上 の 注 意	講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 フィールドワーク (もしくはバーチャルツアー) を実施することがある (土日実施の可能性もある)。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	現代アート&デザイン史		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【主題と概要】アート&デザインの概念や、歴史を理解する。そのために時代的・文化的重要事柄などを絡み合いながらアートやデザインのエポックを取り上げて論じていく。 【到達目標】 ・アートとデザインのあり様について各自理解すること。 ・デザインとアートの今後の展望についての各自の考えをもつこと。 ・課題を通じて各自のアート&デザインについて論じること。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 近代のまとめ①（アーツ&クラフツ運動以降から） 3. 近代のまとめ②（近代の視覚的イメージ） 4. アメリカのインダストリアル・デザイン 5. ヨーロッパの現代デザイン 6. アメリカの現代デザイン 7. 日本の現代デザイン 8. まとめ（1）プレゼンテーション 9. 現代アート①（1917 年～1970 年） 10. 現代アート②（1980 年代～2000 年） 11. 現代アート③（2000 年以降） 12. サブカルチャーとアート 13. テクノロジーとアート 14. 日本のアーティスト 15. まとめ（2）レポート作成 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『増補新装 カラー版 世界デザイン史』（阿部公正監修，美術出版社，2012） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	テキストは必ず持参すること。 授業の際に告知する。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション（40%） レポート（40%） 授業態度（20%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート造形技法演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 標 目	【主題と概要】 マルセル・デュシャン以降、現代アートやその作法についての理解を深める。 現代におけるアート技法に関する各自の知識や技術、応用力を身に付ける。 現代環境の変化と表現に対する洞察力や、柔軟な思考力を育む。 【到達目標】 ・作品制作を通じて各自の現代アートの制作手法について模索する基礎能力をもつこと。 ・様々な造形技法を試しながら自らのアートコンセプトによる創作へと発展させる。 ・各自が現代アートにおける CG 表現を理解し、応用できる概念と基礎的技術的な能力をもつこと。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. レディメイド (Ready-made) としてのアートを理解する 3. レディメイドとアート 作品の発想 4. レディメイドとアート 企画 5. レディメイドとアート 制作 6. レディメイドとアート プレゼン 7. ジャンク (Junk) とアートとの関わりを理解する 8. ジャンクとアート 作品の発想 9. ジャンクとアート 企画 10. ジャンクとアート 制作 11. ジャンクとアート プレゼン 12. 複製技術としてのアートを理解する 13. 複製技術とアート 作品の発想 14. 複製技術とアート 企画と制作 15. 複製技術とアート プレゼン 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『インスタントアート』(福島 豊彦, 現代書館, 1985)				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。 授業の際、必ず、関連資料および準備物を持参。				
評価の方法 基 準	作品 (70%) プレゼンテーション (20%) 授業態度 (10%)				
履 修 上 の 注 意	積極的に、作品制作やプレゼンに取り込むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	アート造形技法演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	【主題と概要】アート造形技法演習Ⅰを踏まえて現代アートにおける概念や技能をさらに発展させる。そのため、現代におけるイメージやアート表現における様々な次元を理解し、造形的観点を実践的に演習していく。 【到達目標】 ・各自がアート表現としてのイメージの操作技術，その応用力を発展させることができる。 ・2次元と3次元でのイメージの制作手法や技術の特性を理解し，その表現方法を生かしながら作品制作すること。 ・身の周りのものごとについての洞察力や，柔軟な思考力をもつこと。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. イメージとアート 3. 静止画像(still image)における作品の発想 4. 静止画像作品 ①企画 5. 静止画像作品 ②制作（下地準備） 6. 静止画像作品 ③制作（彩色） 7. 静止画像作品 ④プレゼン 8. イメージの増殖 ①企画 9. イメージの増殖 ②制作 10. イメージの増殖 ③プレゼン 11. モーション・イメージ(motion image)における作品の発想 12. モーション・イメージ ①企画 13. モーション・イメージ ②制作 14. モーション・イメージ ③修正および編集 15. モーション・イメージ ④プレゼン 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	イラストレーションの教科書（ローレンス・ツィーゲン，玄光社，2005）				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	作品（70%） プレゼンテーション（20%） 授業態度（10%）				
履 修 上 の 注 意	積極的に，作品制作やプレゼンに取り込むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	モードデッサンⅠ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【主題と概要】ファッションデザイン画の基本的技能や概念を理解する。人体のプロポーション・ポーズ・各身体部位に関するデッサンを演習する。様々な画材の特性を理解し、デザイン画作成に応用する。 【到達目標】 ・人体のプロポーションの理解と描画する技術を習得する。 ・人体の各部位、動きの理解に関する理解と正確な描写力をもつこと ・基本となるファッションアイテムについての正確な描写。 ・テキスタイル素材の表現技法を学ぶ。 ・様々な表現媒体の特性を理解すると同時に応用力を発展させる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 人体のプロポーション：女性正面・直立&女性斜め・直立 3. 人体のプロポーション：女性横・直立, 斜め後ろ・直立, 後ろ・直立 4. 人体のプロポーション：男性正面・直立, 後ろ・直立 5. 人体のプロポーション：正面・方脚重心のポーズ（女性） 6. ボディパーツの描き方：顔・ヘア（女性）&手・足（女性） 7. アイテム画のデッサン：スカート&ワンピース 8. 着装クロッキー（1：鉛筆, マーカー, パステル） 9. 着装クロッキー（2：色鉛筆, 水彩） 10. テキスタイルの描き方：光沢素材・ファー・デニムほか 11. T・P・O とデザイン画（制服） 12. T・P・O とデザイン画（ウェディングドレス） 13. 日本の伝統服からのデッサン 14. 民族衣裳からのデッサン 15. コラージュ技法・その他混合技法による作法 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『ファッションデザイン画を描くためのフィギュア・ポーズ』（シャ・タマセビ著，文化出版局，2018）				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	ポートフォリオ（70%）：課題の内60%以上提出すること。 プレゼンテーション（20%） 授業態度（10%）				
履 修 上 の 注 意	授業の際、必ず、テキストおよび準備物を持参。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	モードデッサンⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	【主題と概要】様々なアイテム画の描き方の習得と、個性的なイラストレーション表現をめざすための理論や演習を行う。また、色彩表現の演習としてのスタイル画・イラストレーション作成を演習する。 【到達目標】 ・各自の個性的なイメージの展開方法論をもつこと。 ・イラストレーション制作における表現技法の多様性を応用すること。 ・CG による制作技法や特性の理解し、各自のテーマ設定と制作が主体的にできること。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション：モードデッサンⅡの概論と作品の紹介 2. 着装クロッキー (①鉛筆) 3. 着装クロッキー (②色鉛筆) 4. パネル制作 5. デッサンのトレス 6. モノトーン表現演習 7. 暖色系の表現①構想 8. 暖色系の表現②着色 9. 寒色系の表現①構想 10. 寒色系の表現②着色 11. 主体的テーマ模索①構想 12. 主体的テーマ模索②制作 13. CG によるイラストレーション演習① (スケッチ) 14. CG によるイラストレーション演習② (着色) 15. 講評会およびまとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『イラストレーションの教科書』(ローレンス・ツイーゲン, クラッシュ, 玄光社, 2006)				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	ポートフォリオ (70%) : 課題の内 60%以上提出すること。 プレゼンテーション (20%) 授業態度 (10%)				
履 修 上 の 注 意	授業の際、必ず、テキストおよび準備物を持参。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	趙 採沃		
授 業 科 目	現代芸術造形論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	【主題と概要】現代アート&デザイン史を踏まえてアート&デザインにおける造形についてさらに理解を深めていく。現代芸術および造形についての知見を広げるために造形の変遷やその原理、造形の秩序を学ぶ。21 世紀以降デジタルや IT 技術の発展に伴う、様々な新たな美や形の誕生、それに関連した作家研究を通じて現代造形や芸術に対する知見を深めていく。講義と、学生それぞれの選定課題のプレゼンテーションを通じて各自の芸術に対する見解をもつことが狙いである。 【到達目標】 ・現代造形に関する基礎的理論に関する理解をもつこと。 ・各自が諸芸術について造形的観点に基づき、意味のあるテーマ設定や、作品及び作家に関する概念を自らの視点からプレゼンテーションでできること。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. 形を見る 3. デフォルメの美学・アジアの形 4. モダニズム 5. ポスト・モダン以降 6. 空間構成 7. 複雑な形の美ほか 8. 運動および光の形 9. テクノロジーと造形 10. 映像およびワイヤーフレームの形 11. 現代作家造形研究 12. 現代作家芸術論研究 13. プレゼン①（課題収集） 14. プレゼン②（課題抽出） 15. プレゼン③（課題のまとめとプレゼン） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『形とデザインを考える 60 章』（三井秀樹，2001，平凡社） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	レポート（50%） プレゼンテーション（40%） 授業態度（10%）				
履 修 上 の 注 意	積極的に、プレゼンに取り込むこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザインⅠ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1年次・前期
授業の主題 目 標	学生は衣服やインテリアの素材となる布のことを考察し、その布をデザインし制作する。また、基本的なデザイン展開の能力を養い、テキスタイルデザイン表現のスキルやテクニックを修得する。 学生各自の発想に発展性を持たせるように努力することと、それらの基礎的表現技法を演習によって発展、展開させる。テキスタイル（繊維素材）を用いたデザイン展開及び造形表現を修学する。 <到達目標> （1）テキスタイル素材を用いた造形表現方法を体験し、知ることができる。 （2）テキスタイル造形表現の可能性を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	各自のイメージやメッセージを伝達する方法として、基本となる造形のエレメントの構成及び色彩による表現等の理論と演習による基礎実技に重きを置く。 授業進行手順 1. ガイダンス、繊維素材を用いてのテクスチャー制作課題1 試作 2. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（制作） 3. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（展開） 4. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1（仕上げ） 5. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題1 講評会 6. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（アイデア出し） 7. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（制作） 8. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2（仕上げ） 9. 繊維素材を用いてのテクスチャ制作課題2 講評会 10. 色彩演習課題制作（アイデア出し） 11. 色彩演習課題制作（下描き） 12. 色彩演習課題制作（彩色） 13. 色彩演習課題制作（仕上げ）、シルクスクリーン制作（製版） 14. シルクスクリーン制作（プリント） 15. 色彩演習課題・シルクスクリーン制作講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	「the elements of design」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	A,Bクラスに分ける。演習による作品制作が多く、提出期限を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明（実務経験あり）		
授 業 科 目	テキスタイルデザインⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	学生はテキスタイルデザインⅠに引き続き、繊維素材によるテクスチュア追求を基礎とし独自のアイデア、表現方法を修得する。また、デザインのコンセプトやアイデアをより発展させるため、各自が自由にテーマを選択し、具体的にファッション及びインテリアとして独創的なデザインとして発展展開させる。テキスタイル表現のの展開と考察を学び、造形表現に応じた作品制作を行う。 <到達目標> (1) テキスタイル素材を用いた造形表現方法を体験し、知ることができる。 (2) テキスタイル造形表現及びテキスタイルデザインの可能性を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	素材のデザインを通じて、自己表現を追求し、テキスタイルデザイン作品に完成させることが目的である。 授業進行手順 1. ガイダンス、羊毛・フェルト制作方法の説明 2. フェルトによる表現制作（球体作り） 3. フェルトによる表現制作（布作り） 4. フェルトによるテクスチュア課題制作（試作） 5. フェルトによるテクスチュア課題制作（展開） 6. フェルトによるテクスチュア課題制作（仕上げ） 7. フェルト企画課題制作（アイデア出し） 8. フェルト企画課題制作（展開） 9. フェルト企画課題制作（仕上げ） 10. フェルト課題講評会 11. 紙漉き制作方法の説明 12. 紙漉き実習課題制作（試作） 13. 紙漉き実習課題制作（展開） 14. 紙漉き実習課題制作（仕上げ） 15. 紙漉き実習課題講評会 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	「フェルトメイキング」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	テキスタイルデザインⅠ単位取得者のみ。教室及び備品の関係上、履修者の人数制限あり。提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	竹島玲子		
授 業 科 目	CG 基礎演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	イラスト制作からデザインまで行える描画ソフト（Adobe Illustrator）と写真を加工するためのソフト（Adobe Photoshop）の基本操作を習得する。 また、ソフトを利用して、グラフィックデザインやイラストレーション制作の基礎的な技術を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション Illustrator と Photoshop のソフト概要 2. 丸と四角だけで描いてみる 3. Illustrator 基本操作 1 （図形・拡大縮小・複製） 4. Illustrator 基本操作 2 （合成・線・色） 5. Illustrator 基本操作 3 （手書きの絵を使う・レイヤー・自由な線） 6. Illustrator 基本操作 4 （文字・マーク） 7. 課題制作（イラスト制作） 8. 課題制作（イラスト完成） 9. Photoshop 基本操作 1（画像補正・色調補正・選択・保存） 10. Photoshop 基本操作 2（画像補正2・切り抜き） 11. Photoshop 基本操作 3（写真の合成・塗りつぶし） 12. Photoshop 基本操作 4（補足） 13. 課題制作（データの準備・デザイン） 14. 課題制作（デザイン） 15. 課題制作（デザイン・ブラッシュアップ・完成） ※ 進行状況によっては、上記内容が前後したり、変更される可能性がある 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『デザインの学校 これからはじめる Illustrator & Photoshop の本 [2019 年版]』 必要に応じて、資料を提示する。				
準備学習の 具体的内容	授業毎に復習して、着実に技術を習得できるように心がける。				
評価の方法 基 準	授業に取り組む姿勢（50%） 課題制作（50%）				
履 修 上 の 注 意	データ保存用として、各自 USB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	クリエイション論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 身体と環境を基軸としたファッション，デザイン，芸術について考える。 アーティストやデザイナー，思想家によるデザインやものに対する姿勢や洞察について，作品や文章から追っていく。クリエイションの課題に取り組み，プレゼンテーションによって表現・考察する。 <到達目標> 普段から周囲にあるもの・出来事を観察する姿勢を身につけることができる。 普遍的あるいは新しい価値や視点を理解し提案できる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 創造することについて 2. 収集することについて 3. 編集することについて 4. らしさについての考察 5. プレゼンテーション（自分らしさ） 6. 目に見ることができないけれど，存在する大切なもの 7. 点について 8. 線について 9. 環境ともものを利用したつらなり 10. プレゼンテーション（点と線の収集と表現） 11. ものの見方について 12. ものごとを立ち上げることについて 13. 計画すること，設計すること 14. 展開することについて 15. プレゼンテーション（あるものを自由に展開する） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『かたちのみかた』立花文穂（誠文堂新光社）				
準備学習の 具体的内容	授業で配付された資料に目を通し，プレゼンテーションの準備や課題に取り組むこと。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション（70%） 課題（30%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	クリエイション演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 創造するための観察する力とチームワークを高める能力を身につける。1. 束を編集・制作し、新しいものの見方を提示する。2. event（イベント・出来事）に至るまでを、グループワークによって企画・計画して実践する。 <到達目標> 身近なものを観察・収集・編集し、新しいものの見方を創造することができる。 グループワークに必要なコミュニケーションができる。企画を立案し実践することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 束を製作するための趣旨説明 2. 素材の収集 3. 編集の考え方について 4. 束の制作 5. 束のプレゼンテーション 6. オリエンテーション event を企画・構想するための趣旨説明 7. 企画と構想について 8. 計画とスケジュールについて 9. 広報のありかたについて 10. 場所の探索 11. 中間報告 12. event の制作 13. event のプレゼンテーション 14. 搬入, 設営 15. event の開催, 発表, 搬出 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『デザインの生態学』後藤武・佐々木正人・深澤直人（東京書籍）				
準備学習の 具体的内容	課題に取り組むこと、およびグループワークのための準備をすること。				
評価の方法 基 準	課題 (60%) プレゼンテーション (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	上村 晴彦（実務経験あり）		
授 業 科 目	ライフスタイルプロダクト演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<授業の主題> 今を生きる私たちがどのようなものに囲まれて生活しているかを観察し考え、「新しい世界」のためのデザインを試みる。「つつむ」というテーマに取り組み、私たちの周囲を考察しライフスタイルを再考する。観察と収集した資料から導き出された「つつむ」を広い意味での身につけるものにデザインする。 <到達目標> 自分たちの生活をつくり出しているもの（環境）を考察し、デザインを提案することができる。ライフスタイルという観点から新たな視点や価値を創造することができる。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション ライフスタイルとテーマ「つつむ」について 2. 生活している身近な環境について 3. 素材の収集とその方法について 4. つつむについての考察1 ものとの関係 5. つつむについての考察2 ないものに包まれること 6. つつむについての考察3 行為について 7. レイアウトについて 8. 中間発表 プレゼンテーション 9. 制作, 場所の探索 10. 展示計画 11. 広報のデザイン 12. 搬入, 設置, 展示 13. 展示, 搬出 14. まとめ 15. ポートフォリオの作成 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『0円ハウス』坂口恭平（リトルモア） 『超芸術トマソン』赤瀬川源平（ちくま文庫）				
準備学習の 具体的内容	課題に取り組み、参考資料の該当箇所や配付資料をよく読むこと。				
評価の方法 基 準	課題（70%） プレゼンテーション（30%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中・上村・青島・伊藤・片山・川上・佐藤（麻）・竹島		
授 業 科 目	デザイン・アート論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	デザイン及びアート領域に関わる活動について理解し、デザインワーク、ものづくり、企画、販売、調査など様々な展開と関連性を学ぶ。各講義内容から社会におけるデザイン、アートの役割を知り、将来的に関連分野での仕事に就くための素養を身につける。 <到達目標> (1) デザイン、アートの社会的役割を知る。 (2) デザイン、アート分野に携わるための素養を身につけることができる。				
授業の内容 進 め 方	各フィールドにおける、デザイン及びアートに関わる下記内容を講義する。 1. ANONYM というお店、場、企画について（担当：佐藤（麻）） 2. 羽良多平吉の仕事や思考を通じて見る、デザイン・イラストレーション（担当：竹島） 3. デザイン・イラストレーターへの道（担当：竹島） 4. ビジュアルコミュニケーションって何だろう？（担当：竹島） 5. デザインやイラストレーションが完成するまでの道のり（担当：竹島） 6. 陶芸家として（内面の話）／ものが生まれる必然性（担当：伊藤） 7. 1 + 0（イチタスゼロ）の試み・プロダクトの考え方（外との関わり）（担当：伊藤） 8. イントロダクション アートワールド構成（担当：川上） 9. 現代アートとはなにか（担当：川上） 10. アートから考える現代社会（担当：川上） 11. 糸を紡ぐための繊維と準備について、羊毛の歴史、種類、用途を理解する（担当：青島） 12. 糸紡ぎのテクニックとデザイン：伝統的な糸紡ぎから現代のアートヤーンまで（担当：青島） 13. ほぼ無人島に美術館をつくる（担当：片山） 14. アートプロジェクト考察（担当：片山） 15. 岡山に住むクリエイターたち（担当：片山）・まとめ（担当：片山・上村・田中） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	青島由佳著「糸紡ぎのテクニックとデザイン」、適宜資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各講義において、授業前の調査、資料収集などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	授業レポート（100%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	柳 沢 秀 行		
授 業 科 目	美術史		科 目 区 分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1, 2 年次・(後期)
授業の主題 目 標	【主題と概要】大原美術館所蔵の作品を対象として、西洋と日本の近代美術の歴史に関わる知識を提供する。同時に、毎回、特定の作品を細やかに観察し、その言語化を行う。 【到達目標】 ①西洋と日本の近代美術の概要を把握する。同時に、日本の民芸運動の歴史をたどり、児島の繊維産業など地場産業についての理解を深める。 ②対象とする作品から、自らが、情報を取り出すスキルを獲得する。それを通じて、絵画のみならず、諸々の観察対象へのアプローチの質と幅を広げる。 ③美術館の楽しみ方を習得する。				
授業の内容 進 め 方	1. 絵画を見るときは？ 絵画は多様な情報体 2. お約束のある絵画 ―エル・グレコ《受胎告知》を見る 3. 近代の入口 ―シャヴァンヌ《幻想》とクールベ《秋の海》を見る 4. 描くものと描き方 ―モネ《積みわら》と《睡蓮》を見る 5. 点々 ―セガントーニ《アルプスの真昼》とピサロ《りんご採り》を見る 6. 変な？形 ―ピカソ《鳥籠》と《頭蓋骨のある静物》を見る 7. わけわかんない！？絵 ―ポロック《カットアウト》を見る 8. 日本のことも見ておこう 岡山関係者でたどる近代美術史 9. 青木繁《男の顔》を見る 10. 関根正二《信仰の悲しみ》と小出檣重《Nの家族》を見る 11. 岸田劉生《童女舞姿》を見る 12. 中山巍《笛吹き》を見る 13. 松本竣介《都会》を見る 14. M I N G E I ―民芸 15. 美術館って何する所？ 毎授業時、小レポートを提出 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必須ではありませんが、下記が参考となります。 「大原美術館＋ 作品 151 と建築」(2022 年 大原美術館)				
準備学習の 具体的内容	美術館での鑑賞体験を少しでも増やしてください。あるいは、美術作品でなくとも、身近な物品や服でもよいので一つのものを良く観察することをしてください。				
評価の方法 基 準	毎授業時に実施するレポート (100%)				
履 修 上 の 注 意	各授業 開始から 15 分以上の遅刻は、聴講は可能だが、欠席扱いとする。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	高橋 俊臣		
授 業 科 目	カラーコーディネート論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 標 目	デザイン、造形や日常生活と密接な関わりを持つ「色」を知覚や心理などさまざまな視点から捉え、その基礎を学ぶ。また、基礎理論のみならず、背景にある時代、社会や文化などとの関係からその応用や可能性を考察する。 1. 色の知覚、生理、心理作用など色彩の基礎を理解する。 2. 色の歴史的背景や文化を考察し、デザイン表現に活かす力を身につける。				
授業の内容 進 め 方	1. カラーコーディネートとは 2. 色の見え 3. 光とスペクトル 4. 目と脳の働き 5. 色の心理的作用 6. 色の感情効果 7. 混色と色再現 8. 色の表示 マンセル表色系 9. 色の表示 オストワルト表色系 10. 色の測定 11. 色の嗜好 12. 色彩調和 13. カラーユニバーサルデザイン 14. 日本の色、世界の色 15. フィールドワーク、まとめ 理解を深めるために、色収集レポートなどを課すことがある。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	資料を配布する。 参考書等は授業内で紹介する。 参考書：『色彩』 大井義雄・川崎秀昭 著 日本色彩研究所 『色彩学の基礎』 山中著 著 文化書房博文社				
準備学習の 具体的内容	身の回りの色、美術作品やデザイン、環境の色の在り方、見え方に注目する。				
評価の方法 基 準	期末レポート (90%) 授業への参加態度 (10%) 期末レポート提出を評価条件とする。				
履 修 上 の 注 意	進行状況により授業内容および順序を変更する場合がある。 色彩検定等を目指す場合は、講義では触れない内容についても自主的に学んでいくこと。 資料代として実費 500 円を徴収する。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染織 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	学生は布を織ること、染色すること、諸々の織組織により柄を創ることなどによる無限に広がる造形制作を行う。これらを完全な手仕事によって、織りの基本操作と基本技術を学び、応用作品に展開することを修得する。各自、繊維素材に触れながら、テキスタイル見地からのプロダクトとしての制作を体験し、ものづくりを行う。 <到達目標> (1) 布の構造及び織り表現を体験し、知ることができる。 (2) 織りによる布の造形表現展開を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	手織機を使用し、織組織の単純で基本的な平織と糸染めの基本を修得する。 授業進行手順 1. ガイダンス、ミューズ・コットンによる織組織の練習 2. 課題説明、色彩計画、ウール精練 3. ウール染色の説明、ウール染色 4. ウール染色 5. 手織機の説明、糸の整経 6. 糸の整経 7. 手織機の説明 8. 手織機（踏木4本、綜紬4枚）の基本操作についての修得 9. 手織機への経糸セッティング（経糸） 10. 手織機への経糸セッティング（綜紬通し） 11. 手織機への経糸セッティング（箆通し） 12. 平織組織の応用制作・織り始めの説明 13. 平織組織の応用制作 14. 組織の応用制作・基本技術の修得 15. 組織の応用制作 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「ウィーヴィング・ノート」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の課題計画（デザイン）などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	教室及び織機台数の関係上、履修者の人数制限あり。提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染織Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	学生は様々な織組織と素材，色彩効果を用いたテクスチャーと造形表現を修得し，自ら計画した布制作を修学する。 織ることをより発展させ，造形表現作品として染織を考え作品制作を遂行する。 <到達目標> (1) 布の構造及び織り表現を体験し，知ることができる。 (2) 織りによる布のデザイン展開を遂行する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	手織機を使用し，織組織の単純で基本的な平織と糸染めの基本を修得する。 授業進行手順 1. ガイダンス，課題説明 2. 糸の精練 3. 糸の染色技術の修得 4. 糸の染色 5. 糸の整経技術の修得 6. 糸の整経 7. 手織機操作の修得 8. 手織機操作と製織準備 9. 組織による布の制作の修得 10. 組織による布の制作（基本） 11. 組織による布の制作（平織の応用） 12. 組織による布の制作（変化平織の応用） 13. 組織による布の制作（綾織の応用） 14. 組織による布の制作（変化綾織の応用） 15. 組織による布の制作（仕上げ） 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「ウィーヴィング・ノート」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において，授業前の課題計画（デザイン）などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	教室及び織機台数の関係上，履修者の人数制限あり。提出物は期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	染色		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	学生は布素材による染色方法の基本を修得する。 絵画表現と異なる防染技術を学び、各自の自由な発想をもとにアート及びデザインとして、染色表現を追求する。 染色の基本工程を学び、各自がデザインした布を制作する。 <到達目標> (1) 染色表現を体験し、知ることができる。 (2) 染色による布のデザイン展開を遂行する。				
授業の内容 進 め 方	ろう染による作品制作方法・染色方法の基本的な工程から応用的な工程まで体験する。 授業進行手順 1. ガイダンス、ろう染制作説明 2. マス見本制作（下描き、ろう防染） 3. マス見本制作（ろう防染） 4. マス見本制作（染色技術の修得） 5. マス見本制作（染色） 6. マス見本制作（固着） 7. テーマ課題制作（デザイン制作・下地作り） 8. テーマ課題制作（下描き） 9. テーマ課題制作（ろう防染） 10. テーマ課題制作（染色） 11. テーマ課題制作（固着） 12. テーマ課題制作（ろう防染2回目） 13. テーマ課題制作（染色2回目） 14. テーマ課題制作（固着2回目） 15. テーマ課題制講評会 定期試験は実施しない。				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「染色の基礎知識 合成染料の技法」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において、授業前の課題計画（デザイン）などを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品（100%）				
履 修 上 の 注 意	テキスタイルデザインⅠ単位取得者のみ。教室及び備品の関係上、人数制限あり。 演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を守ること。				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン I			科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期	
授業の主題 目 標	デザインの基礎学習である。平面と立体の作品の制作演習課題を通して、「Design Thinking：デザインの知識」の修得と「Craftsmanship：描き方のスキル、制作スキル」の意識を表現する。 到達目標： 1. ビジュアルデザインの基礎要素を認識する 2. その知識に基づいて、自分の作品を客観的に判断する 3. 丁寧なデザイン制作テクニックを適用する。 4. デジタルスキルの理解する（スキャンデータ的制作、画像補正、ページレイアウト、出力）。 5. 作品のプレゼンテーション方法を効果的に実施する。					
授業の内容 進 め 方	各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに変更する可能性がある。 課題作品1 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. 平面作品の「Design Planning：デザインプランニング」 3. 平面作品の「Design Creation：制作」 4. 平面作品の「Design Retouching：修正」 5. 平面作品の「Design Completion：完成」 課題作品2 6. 立体作品の「Design Planning：デザインプランニング」 7. 立体作品の「Design Creation：制作」 立体デザイン完成 8. 立体作品の「Design Retouching：修正」 9. 立体作品の「Design Completion：完成」 10. 立体作品写真撮影のテクニック 課題作品3 11. デジタル実施：スキャンデータ的制作, Adobe Photoshop 「Image Correction：画像補正」 12. デジタル実施：Adobe Illustrator 「Page Layout:ページレイアウト」 13. デジタル実施：Adobe Illustrator 「Portfolio：作品集」の仕上げ 14. デジタル実施：出力、まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	Inventing Kindergarten, by Norman Brosterman, 1997 The Magic of M.C. Escher, by J.L. Locher, 2000 The Work of Charles and Ray Eames, Harry N. Abrams, 1997 上記に加えて授業課題に関連参考資料を Google Classroom で投稿する。					
準備学習の 具体的内容	必ず、前回の授業内容を復習して、課題作品の要件に従っていることを確認すること。 授業前に Google Classroom の指示、資料、説明等を参考すること。 提出期限どおりに準備すること。					
評価の方法 基 準	作品制作（70%） 完成作品のプレゼンテーション・発表（30%）					
履 修 上 の 注 意	手描きとデジタルの両方の制作を学びますので、色鉛筆、アクリル絵の具、筆セット、USB メモリ（64GB 以上を推奨）をご準備ください。具体的な必要事項は、初回の授業で説明します。					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	竹島 玲子		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 標 目	グラフィックデザインの基礎的な技術と表現を身につけていく。 「ブック制作（課題 A）」もしくは「商品の販売促進ツールの制作（課題 B）」のいずれかの課題を選び、時間をかけてじっくりと制作していく。 「ブック制作」では、オリジナル冊子（テーマは作品集・絵本など自由）を制作する。複数の紙が綴じられた冊子という形状の特性を生かしたデザインを習得する。「商品の販売促進ツールの制作」では、商品販売の際に必要な、基本的な広告ツール（ロゴ・リーフレットなど）を制作していく。その際、商品が持っている問題点を、どうやってデザインで解決できるか考えながら取り組んでいく。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション デザインリサーチ 2. 課題 A（テーマを決める） 3. 課題 A（リサーチ） 4. 課題 A（仕様を決める） 5. 課題 A（素材集め） 6. 課題 A（画像制作） 7. 課題 A（画像加工） 8. 課題 A（テキスト制作） 9. 課題 A（テキスト書き起こし） 10. 課題 A（デザイン制作） 11. 課題 A（デザインブラッシュアップ） 12. 課題 A（デザイン仕上げ） 13. 課題 A（印刷） 14. 課題 A（製本） 15. プレゼンテーション 課題 B（リサーチ） 課題 B（素材集め） 課題 B（ロゴ） 課題 B（ロゴ／ブラッシュアップ） 課題 B（ロゴ／仕上げ） 課題 B（パッケージ） 課題 B（パッケージ／ブラッシュアップ） 課題 B（パッケージ／仕上げ） 課題 B（リーフレット／リサーチ） 課題 B（リーフレット／デザイン） 課題 B（リーフレット／デザインブラッシュアップ） 課題 B（リーフレット／デザイン仕上げ） 課題 B（印刷） ※ 上記の進行はあくまで目安で、作業内容は個々の進行具合で変わってくる可能性がある。 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『スタイル別ロゴデザイン』（パイインターナショナル）『手で作る本』（山崎曜・著／文化出版局） 必要に応じて学校の図書館の蔵書からデザインに関する書籍を参考資料として提示する。				
準備学習の 具体的内容	商品の販売促進ツールの制作……日常で目にするデザインや広告のみならず、様々なものを意識して観察することを心がける。気になるものは調べて分析してみる。 ブック制作……授業内で制作するのが難しい作品作りや写真撮影、素材集めなどは、授業外で少しずつ準備をしておくこと。				
評価の方法 基 準	授業に取り組む姿勢（50%） 課題制作（50%）				
履 修 上 の 注 意	データの保存用として、USB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	小寺 茂樹		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅢ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	キャラクターデザインは広告や出版，web 等の世界で注目されている分野です。 現場のキャラクター制作の行程を踏まえながら，アイキャッチャーやマスコットとして訴求力のあるキャラクター作りを学ぶ。 (到達目標) 1. 各種媒体の使用を想定しキャラクターの世界観，性格やネーミング等を設定する。 2. アピールポイントを考えながら一連の制作を行う。 3. 色鉛筆画技法では作例を参考にグリザイユ画法を習得する。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 自己紹介イラスト制作1 (スケッチブック，色鉛筆などの画材の準備) 2. 自己紹介イラスト制作2 3. 色鉛筆画技法1 グリザイユ画法解説 基礎トレーニング 4. 色鉛筆画技法2 モチーフトレスダウン 描画 5. 色鉛筆画技法3 描画 6. キャラクターデザインのポイント，制作のプロセス等の解説 動物キャラクター制作1 (基礎) ストーリーの組み立て・アイデア抽出 7. 動物キャラクター制作2 (基礎) デザイン案絞り込み 8. 物キャラクター制作3 (基礎) フィニッシュワーク 9. L I N Eスタンプ制作1 数多くラフ画を描く 10. L I N Eスタンプ制作2 数多くラフ画を描いた中からデザイン案絞り込み 11. L I N Eスタンプ制作3 フィニッシュワーク 12. 商業用 (食品) キャラクター制作1 ストーリーの組み立て・アイデア抽出 13. 商業用 (食品) キャラクター制作2 デザイン案の絞り込み 14. 商業用 (食品) キャラクター制作3 フィニッシュワーク 15. 商業用 (食品) キャラクター制作4 講評 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 クリエイティブ色鉛筆 キャラクターデザイン・トゥディ				
準備学習の 具体的内容	市場では様々なキャラクター達が活躍しています。 それらの性格や個性まで想像しながら観察をし，準備学習とします。				
評価の方法 基 準	提出課題の目標達成度によって評価します。 作品 (90%) プレゼンテーション (10%)				
履 修 上 の 注 意	3・6・9・12・15回は各課題の提出と講評。 提出期限を厳守してください。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	佐藤 豪人		
授 業 科 目	ビジュアルデザインⅣ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実 習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	幅広い分野で必要とされているブランディングデザインを学びます。 デザイン思考を活用したプロジェクトの観察や調査，アイデアの着眼と創出の方法，デザイン制作において完成度の追求，言語化を必要とするプレゼンテーションなどブランド化に貢献するコミュニケーションデザインのプロセスを習得することを目指します。				
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーション 2. デザイン思考＝リサーチ，情報整理 3. デザイン思考＝プロジェクトの観察 4. デザイン思考＝課題・問題の言語化（中間発表） 5. デザイン思考＝プランニング，コンセプトメイキング 6. デザイン制作＝アイデア創出 7. デザイン制作＝ラフ制作 8. デザイン制作＝造形の言語化（中間発表） 9. デザイン制作＝造形の探求 10. デザイン制作＝造形の着地 11. デザイン制作＝完成度の追求 12. プレゼンテーション＝資料の制作 13. プレゼンテーション＝資料の推敲 14. プレゼンテーション＝資料の説明（最終発表） 15. プレゼンテーション＝全体講評 最終発表を定期試験とする				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じて資料を配布または提示します。 参考資料：参考資料：「デザインする技術」，「Typography」，「欧文書体 その背景と使い方」（小林 章），「欧文書体 2 定番書体と演出法」，「欧文書体のつくり方 美しいカーブと心地よい字並びのために」など				
準備学習の 具体的内容	日常の中にあるデザインを観察し，言語化してみる。 気になったモノやコトを誰がデザインしたのか調査し，言語化してみる。				
評価の方法 基 準	デザイン思考（30%） デザイン制作（40%） プレゼンテーション（30%） 授業に取り組む姿勢と成果物によって評価します。				
履 修 上 の 注 意	データの保存用としてUSB メモリを準備しておくこと。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	基礎デッサン		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 目 標	デッサン力は、スポーツという体幹トレーニングである。スポーツでは、華やかな試合に関心が集まるように、造形も作品発表に関心が集まりがちである。そのため、「基礎デッサン」とは地味で目立たないものを感じられるかもしれないが、この当たり負けしない体幹の力をつけることこそが、造形の第一歩となるのである。 ここでは、モノの描写を通して、造形の基本となるプロポーション・明暗・量感・質感などについての観察力と造形感覚を養い、服飾美術で応用できる基礎力の修得を目標とする。				
授業の内容 進 め 方	1 オリエンテーション・遠近法の理解 2 〈課題1〉鉛筆デッサン（幾何形体 立方体） ー形をとるー 3 〈課題1〉鉛筆デッサン（幾何形体 立方体） ートーンをつけるー 4 〈課題2〉鉛筆デッサン（幾何形体 球・円柱） ー形をとるー 5 〈課題2〉鉛筆デッサン（幾何形体 球・円柱） ートーンをつけるー 6 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ー形をとるー 7 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ートーンをつけるー 8 〈課題3〉鉛筆デッサン（静物 白いもの） ー仕上げー 9 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ー形をとるー 10 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ートーンをつけるー 11 〈課題4〉鉛筆デッサン（静物 黒いもの） ー仕上げー 12 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ー形をとるー 13 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ートーンをつけるー 14 〈課題5〉鉛筆デッサン（静物 質感のあるもの） ー仕上げー 15 講評 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	視覚デザイン研究所編『鉛筆画初級レッスン（みみずくビギナーシリーズ）』 画材はデッサンセットを購入				
準備学習の 具体的内容	各自、スムーズに制作に取り掛かれるよう、デッサンの進捗状況に合わせ、前回の課題個所を授業前までにイメージしておく。				
評価の方法 基 準	全課題（通常5課題）提出を評価前提条件とし、作品（90%）、取り組み（10%）の総合評価とする。				
履 修 上 の 注 意	汚れてもよい服装であること。 デッサン経験者は、オリエンテーションに過去のデッサン（画像可）を持参すること。				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	野村 真司		
授 業 科 目	人体デッサン			科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実 習	開 講 時 期	2 年次・前期	
授業の主題 目 標	デッサンは、あらゆる造形の基礎トレーニングである。あらゆる造形は、色彩・フォルム・マチエールから成り立っている。人体デッサンでは、マチエールの問題はひとまず置き、フォルムと白黒のトーンを正確に、また多彩に表現できることを目標とする。フォルムでは的確性を重視し、色彩ではトーンの幅に留意していく。トーンへの理解は、やがてバールール（色価）への理解につながっていくはずである。					
授業の内容 進 め 方	1. オリエンテーションおよび〈課題1〉石膏像（全身）－形をとる－ 2. 〈課題1〉石膏像（全身）－トーンをつける－ 3. 〈課題2〉立ちポーズⅠ－形をとる－ 4. 〈課題2〉立ちポーズⅠ－トーンをつける－ 5. 〈課題2〉立ちポーズⅠ－仕上げ－ 6. 〈課題3〉立ちポーズⅡ－形をとる－ 7. 〈課題3〉立ちポーズⅡ－トーンをつける－ 8. 〈課題3〉立ちポーズⅡ－仕上げ－ 9. 〈課題4〉座りポーズⅠ－形をとる－ 10. 〈課題4〉座りポーズⅠ－トーンをつける－ 11. 〈課題4〉座りポーズⅠ－仕上げ－ 12. 〈課題5〉座りポーズⅡ－形をとる－ 13. 〈課題5〉座りポーズⅡ－トーンをつける－ 14. 〈課題5〉座りポーズⅡ－仕上げ－ 15. 講評 定期試験は実施しない					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	視覚デザイン研究所『人体デッサン（みみずくアートシリーズ）』 木炭デッサン用具・クロッキーブック					
準備学習の 具体的内容	各自、スムーズに制作に取り掛かれるよう、デッサンの進捗状況に合わせ、前回の課題個所を授業前までにイメージしておく。					
評価の方法 基 準	全課題提出（通常5 課題）を前提条件として、作品（90%）、取り組み（10%）の総合評価とする。					
履 修 上 の 注 意	汚れてもよい服装であること。 基礎デッサンを履修していることが望ましい。					

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	表現演習			科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・後期	
授 業 の 主 題 目	[授業の主題] 1 デザインに必要な思考能力, 発想法, 身体感覚, 描写力, 平面感覚, 空間感覚を開発する。 2 「表現演習」では特に, “空間感覚” と “平面感覚” を重視し, 空間・立体系演習課題および平面系課題を制作する。 3 各課題作品は, 概ね授業時間内で制作する。 [到達目標] 1 各課題作品について, 獲得した造形的感覚を学友と共有するための文章表現とディスカッションができること 2 デザイン業界の基礎ツールである adobe illustrator に慣れること, 具体的には就職活動に際して, 蓄積したスキルを提示できる作品を数点制作すること。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 空間感覚の基礎トレーニング 2. 光と影の効果を追求した立体作品の事例収集と計画 3. 光と影の効果を追求した立体作品の制作 4. タイポグラフィの制作 5. ロゴ・マークに関するレポート作成 6. ロゴ・マークの商空間への応用, 店舗ファサードの計画 7. ロゴ・マークの商空間への応用, 店舗ファサードのスケッチ制作 8. デザインコンペについて解説, グラフィック系のコンペティション検索 9. グラフィック系コンペティション応募作品計画 10. グラフィック系コンペティション応募作品制作 11. 生活空間とデザイン提案について 12. 討議 (ブレインストーミング実習) 13. アイデアスケッチ 14. プレゼンテーションボード制作 15. 作品発表と講評, 試験					
実務経験を活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書;『Illustrator プロフェッショナルロゴデザイン』(エムディエヌコーポレーション)					
準備学習の具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。					
評価の方法基準	月に2回程度の提出作品 (20%)・平素の制作姿勢 (20%) 期末提出作品 (50%)・期末試験 (10%)					
履 修 上 の 注 意						

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	店舗空間演出演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	[授業の主題] 1 デザインに必要な思考能力, 発想法, 身体感覚, 描写力, 平面感覚, 空間感覚, 社会性を開発する。 2 とりわけ, 店舗空間演出演習では, 絵画における「空間性」を重視する。 3 各課題作品制作にあたっては, 未開拓の造形感覚を獲得するための教員および学友間のディスカッションとアイデアスケッチの交換に取り組む。 [到達目標] 1 各課題作品について, 獲得した造形的感覚を学友と共有するための文章表現とディスカッションができること。 2 本授業におけるディスカッションおよびプレゼンテーションでは, 以下に示す参考図書で用いられる基本的な専門用語を運用できること。				
授業の内容 進 め 方	1. 空間表現手法について (講義) 2. 色彩による空間表現 3. 色彩表現演習 4. 室内空間のスケッチ 5. スケッチの展開 6. 作品制作 (パソコンによる彩色シュミレーション) 7. 作品制作 (彩色) 8. 名作椅子について解説, 椅子模型の制作 9. 第二課題解説 (絵画と空間性について) 10. 店舗企画, 資料収集 11. 店舗設計 12. 店舗模型の制作 13. プレゼンテーション資料制作 14. プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書;『巨匠に学ぶ 配色の基本』(視覚デザイン研究所) 参考図書;『世界の名作椅子ベスト 50』(エクスナレッジ) 参考図書;『VMD ビジュアルテキスト&トピックス』(佐藤昭年)				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出作品 (20%), 制作姿勢 (20%) 期末提出作品 (50%), 試験 (10%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	松内 紀之（実務経験あり）		
授 業 科 目	ディスプレイデザイン演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・後期
授業の主題 目 標	[授業の主題] 1 デザインに必要な思考能力，発想法，身体感覚，描写力，平面感覚，空間感覚を開発する。 2 とりわけ「ディスプレイデザイン演習」では，ショウウィンドウ模型制作を通じた“空間感覚開発”に重点をおく。 [到達目標] 1 出題課題は授業時間内で制作できること。 2 模型制作前後における検討について，文章表現とディスカッションができること。 3 プレゼンテーションは，卒業後各職場で実施される新人研修を想定した水準であること。				
授業の内容 進 め 方	1. ディスプレイデザインについて（講義） 2. ディスプレイにおける基礎造形作品（第1課題）計画 3. ディスプレイにおける基礎造形作品（第1課題）制作 4. ショウウィンドウ画像採集 5. 採集画像について発表・討議 6. ショウウィンドウの計画（第2課題） 7. ショウウィンドウ模型の制作（第2課題） 8. ショウウィンドウ模型（第2課題）の作品撮影 9. ショウウィンドウ作品（第2課題）について発表・討議 10. ショウウィンドウの計画（第3課題） 11. ショウウィンドウ模型の制作（第3課題） 12. ショウウィンドウ模型作品（第3課題）の撮影 13. ショウウィンドウ作品（第3課題）について発表準備 14. ショウウィンドウ作品（第3課題）について発表・討議 15. まとめと試験				
実務経験を 活かす内容	インテリア系デザイン事務所での実務経験を生かし，集客のための発想力を鍛える。 空間的発想を伝達するに必要な表現力（特に模型制作とプレゼンテーション）に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『空間創造発想帖』（六耀社）				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出作品（20%），制作姿勢（20%） 試験（10%），期末提出作品（50%）				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	松内 紀之		
授 業 科 目	基礎デザイン		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	[授業の主題] 1 デザインに必要な思考能力，身体感覚，描写力，平面感覚，空間感覚を開発する。 2 「基礎デザイン」では特に，“平面”を重視する。 [到達目標] 1 各課題作品について，獲得した造形的感覚を学友と共有するために，文章表現とディスカッションができること。 2 学生が入学前に受けた美術教育の有無に関わらず，デザイン系学生に相応しい姿勢で作品制作を行えるようになること。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. テクスチャの表現演習 テクスチャの研究・資料収集 2. テクスチャの表現演習 ケント紙に対し，「引掻く」「剥ぐ」などの操作を行い，表面の素材感を表現する演習を行う。 3. 平面構成 キーワードを設定し，それを元にケント紙に平面構成し，アクリル絵の具で彩色する。 4. ビジュアルソースキーワードの説明 5. デジタルカメラ撮影入門（デジタルカメラで，平面作品・立体作品を撮る方法の解説・演習をおこなう。） 6. 立体作品撮影演習 7. ビジュアルソース画像採集（1）造形キーワードに基づいた画像採集を行う。 8. デザイン史と造形イメージについての説明 9. ビジュアルソース画像採集（2）デザイン史上に現れる造形イメージ採集を行う。 10. ピクトグラムの解説と制作 11. 作成画像・撮影画像の整理とレイアウト 12. テクスチャの表現演習（2）箱状の空間を用意し，その中に，陰影による模様の計画・制作，撮影を行う。 13. 撮影画像の整理とレイアウト 14. 作品プレゼンテーション演習準備とプレゼンテーション演習 15. プレゼンテーション演習と授業のまとめ，試験				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する 参考図書；『デザインの教室』（エムディエヌコーポレーション）				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出作品（20%）・平素の制作姿勢（20%） 期末提出作品（50%）・期末試験（10%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	松内 紀之（実務経験あり）		
授 業 科 目	空間デザイン演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	[授業の主題] 1 デザインに必要な思考能力・発想法・身体感覚・描写力・平面感覚・空間感覚を開発する。 2 服飾系店舗設計演習・店舗模型制作演習を通じて「発想」と「空間感覚」を重視する。 [到達目標] 1 店舗模型制作を通じて獲得した造形的感覚および、服飾販売に係るアイデアを学友と共有するための文章表現とディスカッションができること。 2 本授業におけるディスカッションおよびプレゼンテーションは、おおそインテリアコーディネーター試験で必要となるレベルの用語を運用して行えること。				
授業の内容 進 め 方	1. 授業の説明、過去の成果作品の紹介 2. 商品パッケージの作例紹介と資料収集 3. 商品パッケージのデザイン 4. 商品パッケージの制作 5. 店舗什器の事例収集、解説 6. 店舗什器の模型制作 7. 服飾系店舗の事例収集 8. 服飾系店舗の企画 9. 服飾系店舗設計 10. 服飾系店舗模型制作 11. 服飾系店舗図面整理 12. 服飾系店舗設計図書の作成 13. 服飾系店舗設計プレゼンテーション演習準備 14. 服飾系店舗設計プレゼンテーション演習 15. プレゼンテーション演習と作品講評、まとめ、試験				
実務経験を 活かす内容	インテリア系デザイン事務所での実務経験を生かし、発想力を鍛える。 空間発想の意図を伝達するに必要な表現力（模型制作・作図）に係る実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書；『インテリアデザイン入門』（エクスナレッジムック）				
準備学習の 具体的内容	授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。 課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。				
評価の方法 基 準	月に2回程度の提出作品（20%）、制作姿勢（20%） 試験（10%）、期末提出作品（50%）				
履 修 上 の 注 意	A・Bクラス共通の選択科目であり、履修人数に制限がある（おおむね30人）。履修希望者多数の場合、必修科目の「基礎デザイン」成績上位から履修者とする。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	インターンシップ I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期（集中）
授業の主題 目 標	<授業の主題> 大学で学んでいる理論や技術をもって、企業などの現場でビジネスの世界を体験し、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ授業である。 <到達目標> 以下の実行能力が身についている。 ① 自分自身の将来について考えること ② 自分自身の適性を確認できるようになること ③ 働く意義を考えること ④ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること ⑤ 就職活動に対する幅を広げキャリアデザインを考えること				
授業の内容 進 め 方	受入企業や団体によって日程や実習期間（原則として1週間程度）が異なるので注意すること。 1. インターンシップ事前準備学習（1） 企業や団体などで働くこと、キャリアデザイン、マナーについて考える 2. インターンシップ事前準備学習（2） 企業の事前調査、インターンシップ先の決定 3-14. インターンシップ 1) 基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 2) 1社当たり2～8名単位で行うものとする。 3) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す ①全般概要 ②CAD・CGによる作業 ③量産方式による縫製実習 ④仕上げ ⑤商品検査 15. まとめ インターンシップのまとめとしてお礼状とレポートを記入 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ひとはなぜ服を着るのか』 鷲田清一（ちくま文庫） 『河北秀也のデザイン原論』 河北秀也（新曜社） 『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』 松生勝 編著（朝倉書店） 『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』 梅崎修 他（有斐閣）				
準備学習の 具体的内容	インターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。				
評価の方法 基 準	受講態度（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ①インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ②インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。 ⑥原則として2023年8月末日までにインターンシップを終えること。 ⑦大学が準備しているインターンシップ先企業を希望しない場合は、自ら確保することを求める。 ⑧大学が準備しているインターンシップ先企業は、受け入れ人数に制約がある。よって、履修登録に先立って予備調査を行い、履修制限を実施する場合もある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	インターンシップⅡ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期（集中）
授業の主題 目 標	<授業の主題> 大学で学んでいる理論や技術をもって、企業などの現場でビジネスの世界を体験し、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ授業である。 <到達目標> 以下の実行能力が身についている。 ① 自分自身の将来について考えること ② 自分自身の適性を確認できるようになること ③ 働く意義を考えること ④ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること ⑤ 就職活動に対する幅を広げキャリアデザインを考えること				
授業の内容 進 め 方	受入企業や団体によって日程や実習期間（原則として1週間程度）が異なるので注意すること。 1. インターンシップ事前準備学習（1） 企業や団体などで働くこと、キャリアデザイン、マナーについて考える 2. インターンシップ事前準備学習（2） 企業の事前調査、インターンシップ先の決定 3-14. インターンシップ 1) 基本的にはインターンシップ受け入れ企業の事業内容、インターンシップ受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 ※インターンシップ先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。 2) 1社当たり2～8名単位で行うものとする。 3) インターンシップ内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場インターンシップ例を次に示す ①全般概要 ②CAD・CGによる作業 ③量産方式による縫製実習 ④仕上げ ⑤商品検査 15. まとめ インターンシップのまとめとしてお礼状とレポートを記入 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	参考資料 『ひととはなぜ服を着るのか』 鷲田清一（ちくま文庫） 『河北秀也のデザイン原論』 河北秀也（新曜社） 『アパレル科学概論（生活環境学ライブラリー）』 松生勝 編著（朝倉書店） 『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』 梅崎修 他（有斐閣）				
準備学習の 具体的内容	インターンシップ先の企業等に関する予備調査をすること。				
評価の方法 基 準	受講態度（50%）、インターンシップ日誌とレポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。 ①インターンシップ先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。 ②インターンシップ先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。 ③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。 ④採用につながる可能性があることを意識すること。 ⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。 ⑥原則として2024年1月末日までにインターンシップを終えること。 ⑦大学が準備しているインターンシップ先企業を希望しない場合は、自ら確保することを求める。 ⑧大学が準備しているインターンシップ先企業は、受け入れ人数に制約がある。よって、履修登録に先立って予備調査を行い、履修制限を実施する場合もある。				

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	課題研究		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<主題と概要> 2年次の卒業研究に向けた基礎力を1年次において高めておくことをめざす。 <到達目標> (1)研究テーマの探索と基礎資料の収集に関する基礎的方法論を理解できている。 (2)進学や就職先についての考え方、心構え、探索方法の理解ができている。				
授業の内容 進 め 方	学科内の教授・准教授・講師・助教のいずれかを指導教員とし、その教員指導のもとに2年次において行うこととなる研究活動の準備段階として、研究テーマの探索と基礎資料の収集・基礎技術の習得を半年間に渡って継続的に行う。また、進学（他大学等編入学・専攻科進学）や就職活動のための指導についてもその場を積極的に活用するものとする。 1. オリエンテーション（学修方法の説明） 2～10. 課題の発見・研究テーマの探索 11～14. 基礎資料の収集、基礎技術の習得、作品制作など 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究分野により教材が異なる。				
準備学習の 具体的内容	自身が興味を持つ研究分野に関する予備的調査をすること。				
評価の方法 基 準	演習における学修過程や探求成果をもとに指導教員（服飾美術学科教員）が評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	各指導教員で受入れ人員に制限がある。 担当指導教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				

学 科	服飾美術学科		担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	卒業研究			科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2年次・通年	
授業の主題 目 標	<授業の主題> 学生が興味を抱き、疑問を感じ、関心を寄せた事柄について、指導教員の指導のもとでテーマをもち、実証性・客観性・論理性・芸術性などを追求し、まとめ上げることを目的とする。 <到達目標> 在学2年間の集大成として、選択した研究テーマについて卒業に値する成果が得られている。					
授業の内容 進 め 方	学科内の教授・准教授・講師・助教のいずれかを指導教員とし、その教員の指導のもとに、個人または集団で定めた研究テーマについて、1年間を通して継続的に研究を行う。得られた成果については、中間発表（ゼミにより自由）を行い、最終的には卒業論文要旨集へ全員掲載、口頭発表あるいは作品発表を行う。					
実務経験を 活かす内容						
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。					
準備学習の 具体的内容	卒業制作のための先行研究の調査をすること。 研究テーマについて自主的な探究を継続すること。					
評価の方法 基 準	服飾美術学科教員，指導教員が行う。					
履 修 上 の 注 意	各指導教員で受入れ人員に制限がある。					